

# 令和5年度 第1回 埼玉県立近代美術館協議会

日 時：令和5年8月24日（木）午後2時～

会 場：埼玉県立近代美術館 会議室

## 【目次】

1	令和4年度事業報告	P 1
(1)	常設展示事業	P 1
(2)	企画展示事業	P 3
(3)	美術作品収集事業	P 8
(4)	一般向け普及事業	P 10
(5)	美術館の利用促進事業	P 11
(6)	子供向け事業	P 12
(7)	学校との連携	P 15
(8)	ボランティア活動	P 17
(9)	「椅子」の有効活用	P 17
(10)	一般展示室の利用状況	P 18
2	令和4年度入館者数一覧	P 22
3	令和4年度決算の概要	P 23
4	令和5年度事業実施状況	P 24
(1)	常設展示事業	P 24
(2)	企画展示事業	P 26
(3)	美術作品収集事業	P 29
(4)	一般向け普及事業	P 29
(5)	美術館の利用促進事業	P 30
(6)	子供向け事業	P 31
(7)	学校との連携	P 34
(8)	ボランティア活動	P 35
(9)	「椅子」の有効活用	P 35
(10)	一般展示室の利用状況	P 36
5	令和5年度入館者数一覧	P 37
6	令和5年度当初予算の概要	P 38

# 令和4年度 事業報告

## 1 常設展示事業

### (1) MOMASコレクション（常設展）の開催

年間を4つの会期に分け、会期毎に名品を核とした「セレクション」コーナーや多彩なテーマを掲げたコーナーを設定し、作品の魅力を紹介した（一部、借用作品を含む）。

（※有料観覧者数には、企画展観覧券付属の招待券で入場した人数を含む。）

会 期	内 容	展 示 作品数	期 間	観覧者数
第1期	<p>○「セレクション」 ルノワールほか、MOMASコレクションの名品を紹介。</p> <p>○「デザインで語るユートピア — 1960-70年代イタリアから」 デザインを通して物質文化や生活環境が問い直された1960-70年代イタリア。その動きをデザイン椅子や関連資料から紹介する。</p> <p>○「特集：孫雅由の小宇宙」 生成と消滅、痕跡と不在など、哲学的思索と共に制作を続けた孫雅由（1949-2002）。県内の所蔵家・河正雄氏から寄贈された孫の小品群から、その思考と実践を探る。</p>	109点	自 4月30日（土） 至 8月28日（日） （101日間）	11,126人 1日当たり 110人 うち有料 観覧者数 7,859人 1日当たり 77人
第2期	<p>○「セレクション」 ピカソほか、MOMASコレクションの名品を紹介。</p> <p>○「さいきんのたまもの」 昨年度に新たに収蔵した寄贈作品を紹介。</p> <p>○「月を待つ—日本画の夜景」 日本画における光の表現に注目し、横山大観や森田恒友など様々な画家の作品を紹介。</p>	80点	自 9月3日（土） 至 11月27日（日） （77日間）	9,503人 1日当たり 123人 うち有料 観覧者数 6,246人 1日当たり 81人

会 期	内 容	展 示 作品数	期 間	観覧者数
第3期	○「セレクション」 シャガールほか、MOMAS コレクション の名品を紹介。 ○「まるく／まわる」 円や球体をモチーフにした作品や、 回転する作品に焦点をあてた展示。	46点	自 12月3日（土） 至 令和5年 2月26日（日）  (68日間)	6,762人 1日当たり 99人 うち有料 観覧者数 4,240人 1日当たり 62人
第4期	○「セレクション」 モネほか、MOMASコレクションの名品を 紹介。 ○「倉田白羊と森田恒友」 同じ年に生まれ、親交のあった埼玉ゆ かりの画家・倉田白羊（1881-1938）と 森田恒友（1881-1933）。ふたりの画業 と交友の足跡を、作品や資料を通して 紹介する。 ○「奥原晴湖／菊沢武江」 南画家、奥原晴湖（前期展示）と日本 画家、菊沢武江（後期展示）。埼玉ゆ かりの画家をそれぞれ紹介する。	95点	自 令和5年 3月4日（土） 至 令和5年 5月7日（日）  (57日間)	7,052人 1日当たり 124人 うち有料 観覧者数 4,754人 1日当たり 83人

## (2) アーティスト・プロジェクトの開催

「アーティスト・プロジェクト#2.06 高橋銑 いき、またいきるまで」  
7月16日（土）—10月2日（日）

MOMASコレクションや企画展の枠を超え、現在活躍しているアーティストを紹介する展示プログラム。今回は、近現代彫刻の保存・修復に従事することからキャリアをスタートしたアーティストの高橋銑を紹介。高橋は作品の素材となる物質の変化や、物質が内包する時間に注目しながら、有限や消失、ときに死について表現してきた。本展では、作者のこれまでの関心に基づく最新作を交えたインスタレーション作品を、展示室とセンターホールで紹介した。

## (3) サンデー・トークの開催

例年、年10日程度、MOMASコレクション等の展示作品から毎回1点を選び、学芸員による解説を実施しているが、新型コロナウイルス感染症対策のため開催は自粛した。

## 2 企画展示事業

### (1) 企画展の開催

特定のテーマのもとに、国内外の作品を年4回展示した。

展覧会名	内 容	作品数	期 間	観覧者数
開館 40 周年記念展 扉は開いているか —美術館とコレク ション 1982—2022	1982年11月3日に開館し、 2022年に開館40周年を迎 える当館の活動を、収蔵作 品や資料によって振り返 るコレクション展。 本展では、美術館の原点と もいえる開館前後の活動、 展覧会などの活動と結び ついて形成されたコレク ション、美術館の建築や館 内外の空間に応答するよ うに生み出された作品や プロジェクトなど、さまざ まな視点から美術館の活 動とコレクションをひも といた。	約 180 点	自 2月5日（土） 至 5月15日（日）  （88日間／令和4 年度・40日間）	令和4年 度・観覧 者数 4,550人 1日あたり 113人  うち有料観覧者数 2,667人 1日あたり 66人
シアトル→パリ 田中保とその時代	田中保（1886-1941）は岩 槻に生まれ、18歳で移民と してシアトルに渡ると、働 きながら絵画を学び、画家 としての活動を始めた。 1920年にパリに移住した 後は、サロン・ドートンヌ などの展覧会に出品を重 ねて評価を高め、肖像画や 裸婦像を中心に自らの芸 術を開花させた。この展覧 会では、当館のコレクショ ンを中心に借用作品を交 えて、田中の画業を振り返 る。あわせて田中が生活し たシアトルの状況や、パリ で同時期に活躍した美術 家などを紹介し、田中の生 涯と活動を時代とともに 検証した。	約 100 点	自 7月16日（土） 至 10月2日（日）  （71日間）	9,924人 1日あたり 139人  うち有料観覧者数 6,219人 1日あたり 87人

展覧会名	内 容	作品数 (予定)	期 間	観覧者数
桃源郷通行許可証	芸術に触れるということは、私たちが今立つ現在地から遠く離れた時間や空間を経験することでもある。本展では、現在活躍中の6名の作家の作品と当館のコレクションとが出会う新たな空間の創出を試みた。コレクションと、様々な時代・ジャンルの美術作品や事物とを対照させて展示することによって、時空を超える芸術の力を探った。	約 140 点	自 10月22日(土) 至 1月29日(日)  (81日間)	6,825人 1日当たり 84人  うち有料観覧者数 3,052人 1日当たり 37人
戸谷成雄 彫刻	戸谷成雄(1947-)は1970年代から彫刻家としてのキャリアをスタートさせ、戦後の日本美術における彫刻表現を牽引してきた。本展では初期作品や「森」、「ミニマルバロック」シリーズなどの代表作を紹介し、その活動の全貌を振り返った。	約 40 点	自 2月25日(土) 至 5月14日(日)  (69日間/ R4年度・30日間)	2,579人 1日当たり 85人  うち有料観覧者数 1,439人 1日当たり 47人

## (2) 関連事業等の開催

企画展についての理解を深めるため、関連事業等を開催した。新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、動画配信の手法や事前申込制を導入して実施した。

### ア シアトル→パリ 田中保とその時代

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
9月10日(土)	オンライントーク「岩槻出身の田中保画伯を語る」	語り手：佐伯綾希(当館学芸員) 司会：高橋真理以(岩槻観光委員会)	100人	35人

イ 桃源郷通行許可証

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
11月6日（日）	アーティスト・トーク ①松本陽子×建畠哲	松本陽子（出品作家）×建畠哲（当館館長）	60人	31人
11月19日（土）	ミュージアム・カレッジ 「トランジットー新たな敷居学の提案」 ①「現代作家×コレクション：企画展「桃源郷通行許可証」について」	嶋原悠（当館学芸員）	60人	22人
12月3日（土）	ミュージアム・カレッジ 「トランジットー新たな敷居学の提案」 ②「歌舞伎と女—初代中村仲蔵の母おしゆんの業績」	トーヴェ・ビュールク （埼玉大学教授）	60人	13人
12月4日（日）	文谷有佳里ワークショップ「みえないドローイング」	文谷有佳里（出品作家）	—	24人
12月4日（日）	アーティスト・トーク ②文谷有佳里×筒井宏樹	文谷有佳里（出品作家）×筒井宏樹（現代美術研究者）	60人	21人
12月10日（土）	ミュージアム・カレッジ 「トランジットー新たな敷居学の提案」 ③「老荘思想の基本問題—政治思想を中心に」	西山尚志 （埼玉大学准教授）	60人	20人
12月11日（日）	アーティスト・トーク ③東恩納裕一×藤原えりみ	東恩納裕一（出品作家）×藤原えりみ（美術ジャーナリスト）	60人	23人

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
12月18日（日）	ミュージアム・カレッジ 「トランジットー新たな敷居学の提案」 ④「境界を生きる現代アメリカのアーミッシュ」	野村奈央 (埼玉大学准教授)	60人	11人
1月7日（土）	アーティスト・トーク ④佐野陽一×管啓次郎	佐野陽一（出品作家）×管啓次郎（詩人／明治大学教授）	60人	26人
1月14日（土）、15日（日）	松井智恵 映像作品上映会	—	—	1月14日：66人 1月15日：37人
1月14日（土）	アーティスト・トーク ⑤「松井智恵のタイムライン」松井智恵×橋本梓	松井智恵（出品作家）×橋本梓（国立国際美術館主任研究員）	60人	35人
1月14日（土）	アーティスト・トーク ⑥「SNSとものがたり」松井智恵×高橋信也	松井智恵×高橋信也（京都市京セラ美術館事業企画推進室ゼネラルマネージャー）	60人	29人
1月15日（日）	アーティスト・トーク ⑦「行きて帰りし桃源郷」松井智恵×建畠哲	松井智恵×建畠哲	60人	21人
1月22日（日）	アーティスト・トーク ⑧「環境と所在地、感覚することの先へ」稲垣美侑×井上尚子×青田麻未	稲垣美侑（出品作家）×井上尚子（美術作家）×青田麻未（美学研究者）	60人	29人

ウ 戸谷成雄 彫刻

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
2月26日（日）	担当学芸員の作品解説会	佐原しおり（当館学芸員）	60人	51人
3月12日（日）	対談 戸谷成雄×建畠哲	戸谷成雄（彫刻家）×建畠哲（当館館長）	60人	125人

(3) ミュージアム・シアターの開催

映画や音楽、パフォーマンスといった、展覧会での紹介が難しい表現について取り上げるプログラムとして、「ホラー映画とジェンダー／フェミニズム」をテーマにしたミュージアム・シアターを開催した。

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
3月5日（日）	第1回 上映作品：『悪魔のいけにえ』（1974年）	—	60人	13人
3月5日（日）	第2回 上映作品：『サスペリア』（2018年）	—	60人	20人
3月19日（日）	第3回 上映作品：『悪魔のいけにえ』（1974年）	—	60人	32人
3月19日（日）	第4回 上映作品：『サスペリア』（2018年） 講演会「ホラー映画のジェンダー論」（上映終了後に開催）	鷺谷花（映画学・日本映像文化史研究）	60人	45人

### 3 美術作品収集事業

令和5年3月31日現在

近現代美術を対象に、本県にゆかりのある作家及び本県の美術界に影響を与えた国内外の作家の作品を収集する。

令和4年度は、以下の内容で美術資料選考評価委員会を2回実施し、57件の貴重な作品を収集した。

なお、作品の購入については、財政状況が厳しいことから、実施出来ない状況が続いている。

#### (1) 令和4年度第1回美術資料選考評価委員会における収集作品

令和4年9月11日（日）～10月4日（火）に持ち回りによる審査を実施し、5点を寄贈により収集した。

No.	種別	作家名	作品名	制作年	材質・技法	収集方針
1	彫刻	堀越陽子	笏	1985(昭和60)年	ステンレス、鏡	1
2	ドローイング	田中保	膝をつく裸婦	1920(大正9)年頃	鉛筆、紙	1
3	写真	スクリプカリウ落合安奈	Blessing Beyond the Borders	2019(令和元)年	ゼラチン・シルバークプリント、紙	1
4	映像	スクリプカリウ落合安奈	Double Horizon	2020(令和2)年	音声付き デジタル映像、Full High Definition	1
5	映像	スクリプカリウ落合安奈	Double Horizon	2022(令和4)年	音声付き デジタル映像、4K/Full High Definition	1

※ 収集方針：1 本県にゆかりのある優れた作家の作品 2 本県の美術界に影響を与えた国内外の作家の作品

#### (2) 令和4年度第2回美術資料選考評価委員会における収集作品

令和5年1月27日（金）～2月6日（月）に持ち回りによる審査を実施し、51点を寄贈、1点を保管転換により収集した。

No.	種別	作家名	作品名	制作年	技法・素材	収集方針
1	日本画	菊沢武江	野菜図	1912(明治45)年頃	彩色・紙(めくり)	1
2	日本画	菊沢武江	樹下少女	明治後期～大正初期	彩色・紙(めくり)	1
3	日本画	菊沢武江	長閑	1967(昭和42)年	彩色・紙(軸)	1
4	日本画	菊沢武江	軍鶏	昭和期	彩色・紙(めくり)	1
5	日本画	菊沢武江	鴛鴦	昭和期	彩色・紙(めくり)	1
6	日本画	菊沢武江	闔家全慶	昭和期	彩色・紙(めくり)	1
7	日本画	菊沢武江	海錯図	昭和期	彩色・紙(めくり)	1
8	日本画	菊沢武江	秋景山水図	昭和期	彩色・紙(めくり)	1
9	日本画	菊沢武江	花卉図	昭和期	彩色・紙(めくり)	1
10	日本画	菊沢武江	山鳩図	昭和期	彩色・紙(めくり)	1
11	日本画	菊沢武江	紅白牡丹	昭和期	彩色・紙(めくり)	1
12	日本画	菊沢武江	花卉図	昭和期	彩色・紙(めくり)	1
13	日本画	菊沢武江	寒牡丹に雀	昭和期	彩色・絹(めくり)	1
14	日本画	菊沢武江	牡丹扇面	1945(昭和20)年	彩色・紙(色紙・額)	1
15	日本画	菊沢武江	紅葉小禽	1955年～1970年代	彩色・紙(色紙)	1
16	日本画	菊沢武江	海岸人物	1961(昭和36)年頃	彩色・紙(色紙)	1
17	日本画	菊沢武江	柿に目白	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
18	日本画	菊沢武江	富士に風	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
19	日本画	菊沢武江	桔梗	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
20	日本画	菊沢武江	双鶏	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
21	日本画	菊沢武江	石榴	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
22	日本画	菊沢武江	芙蓉	1955年～1970年代前半	彩色・絹(色紙)	1
23	日本画	菊沢武江	寒椿	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
24	日本画	菊沢武江	軍鶏	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
25	日本画	菊沢武江	雛	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
26	日本画	菊沢武江	旭	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
27	日本画	菊沢武江	キリギリス	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
28	日本画	菊沢武江	紫陽花	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1

No.	種別	作家名	作品名	制作年	材質・技法	収集方針
29	日本画	菊沢武江	水仙	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
30	日本画	菊沢武江	牡丹	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
31	日本画	菊沢武江	紅梅	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
32	日本画	菊沢武江	紅梅扇面	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
33	日本画	菊沢武江	笹に小禽	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
34	日本画	菊沢武江	獅子舞	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
35	日本画	菊沢武江	山岳	1955年～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
36	日本画	菊沢武江	ひいな	1960年代後半～1970年代前半	彩色・紙(色紙)	1
37	資料	菊沢武江	スケッチブック類一式	明治30年代～昭和40年代	墨、鉛筆、色鉛筆、ペン、水彩・紙	1
38	資料	菊沢武江	下絵・模写・スケッチ類一式	明治期～昭和期	彩色・紙／墨・紙／鉛筆・紙／色鉛筆・鉛筆・紙／水彩・鉛筆・紙／ペン・紙／ペン・鉛筆	1
39	資料	菊沢武江	明治期古画模写一式	1903(明治36)年～1907(明治40)年頃	墨・紙／彩色・紙	1
40	資料	菊沢武江	四天王寺伝来《扇面法華経冊子》模写	制作年不詳	彩色・紙／墨・紙	1
41	資料	斎藤与里	内海遊記	1929～38年(昭和4～13年)	ペン、紙(卷子、箱付き)	1
42	写真	瑛九	芝居	1950(昭和25)年／複製:1979(昭和54)年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
43	写真	瑛九	家・窓・人	1950(昭和25)年／複製:1979(昭和54)年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
44	写真	瑛九	Visitors to a Ballet Performance	1950(昭和25)年／複製:1979(昭和54)年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
45	写真	瑛九	鼻高プロフィール	1950(昭和25)年／複製:1979(昭和54)年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
46	写真	瑛九	森のつどい	1951(昭和26)年／複製:1979(昭和54)年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
47	写真	瑛九	庭	1951(昭和26)年／複製:1979(昭和54)年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
48	写真	瑛九	村	1951(昭和26)年／複製:1979(昭和54)年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
49	写真	瑛九	子供の部屋	1952(昭和27)年／複製:1979(昭和54)年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
50	写真	瑛九	コンポジション	1954(昭和29)年／複製:1979(昭和54)年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
51	写真	瑛九	ビルの人	1954(昭和29)年／複製:1979(昭和54)年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
52	立体その他	倉俣史朗	ミスブランチ	デザイン:1988(昭和63)年 制作:2007(平成19)年	本体:アクリル、造花 脚:アルミニウムパイプにアルマイト染色仕上げ	2

※ 収集方針: 1 本県にゆかりのある優れた作家の作品 2 本県の美術界に影響を与えた国内外の作家の作品

### (3) 令和4年度収集作品数と収蔵作品総数

区分	令和4年度収集点数			令和5年3月31日現在
	購入	寄贈	保管転換ほか	収蔵作品 総数
日本画	0	36	0	505
油彩画ほか	0	0	0	676
ドローイング	0	1	0	837
版画	0	0	0	1,395
写真	0	11	0	222
映像	0	2	0	4
平面その他	0	0	0	19
彫刻	0	1	0	198
立体その他	0	0	1	13
工芸	0	0	0	50
書	0	0	0	31
資料Ⅰ	0	5	0	150
資料Ⅱ	0	0	0	34
合計	0	56	1	4,134

## 4 一般向け普及事業

### (1) ミュージアム・レクチャーの開催

多くの方々に美術及び関連領域に親しんでもらうため、レクチャーを含むプログラムを実施した。内容については当館で開催する展覧会や収蔵作品と必ずしも結び付けず、聴講者が今後当館だけでなく様々な場で作品を鑑賞する時や、制作を行う際の刺激となることをねらいとした。

期 日	内 容	講 師	定員等	参加者数
令和5年 3月21日	日本画に関すること (日本画材、技法について)	林 樹里 (日本画家・東京藝術大学 COI拠点 Arts &Science LAB 特任助手)	・定 員：30人 ・参加費：無料	28人

### (2) 一般団体案内

企画展やMOMAS コレクション展を観覧する2人以上の団体を対象に、スライドによる案内（「スライド・トーク」）を行った。内容は、展覧会の見どころや作品解説、美術館全体の案内、屋外彫刻の解説など、希望に応じた内容・時間で対応した。

なお、視覚障がい者を対象としたガイドや出張講座も実施した。

令和4年度：16団体 437人

### (3) 資料閲覧室の運営

国内外の美術図書、雑誌を公開するとともに、美術情報の提供や資料相談を行った。

※火・木・土曜日の午後のみ開室。

### (4) 広聴広報活動

ア 来館者の意見を美術館活動に反映していくため、アンケートコーナーを設置。

併せて、企画展、MOMAS コレクション、普及関連の講座等でアンケート調査を実施した。

イ アンケートやインターネットで受け付けた質問や要望に対し、随時回答を行った。

ウ 広報紙「ソカロ(MUSEUM NEWS)」、「MUSEUM CALENDAR」及び企画展ポスターやちらし、学校向けの利用案内等を作成し、県内の公民館・図書館等の情報拠点や全小・中・高、特別支援学校、全国の美術館などに配布した。

エ 美術館ホームページやTwitter、Facebook、YouTube を活用して、企画展やMOMAS コレクション、その他の様々な催し物の内容や利用案内など、最新の美術館情報を発信した。

オ プレスリリースの配信、記者発表、プレス内覧会の実施など、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、WEB等各種の媒体に対して積極的なパブリシティに努めた。

カ Google Arts & Culture に参加し、当館のコレクションやストリートビューを全世界に向けて発信した。

キ MOMAS コレクション及び企画展の開催にあわせ、JR東日本大宮支社の協力を得て北浦和駅構内にポスターを掲出した。

ク 北浦和地区の自治会、商店会との協力関係を築き、企画展チラシの回覧や掲示を行った。

ケ 埼玉りそな銀行北浦和西口支店の協力を得て、同店の大型ディスプレイにて美術館の情報を発信した。

コ 県民の日に MOMAS コレクション観覧料無料サービスを実施した。

## 5 美術館の利用促進事業

### (1) 北浦和公園ポリス・コンサート

北浦和公園を活用し、美術館利用を促進するため、下記の事業に協力した。

期 日	内 容	場 所	定員	参加者数
令和4年 6月4日（土）	「北浦和公園ポリス・コンサート」 出演：埼玉県警察音楽隊・カラーガード隊 主催：埼玉県警察本部広報課	北浦和公園	100 人	100人 見学 200人

### (2) ファミリー鑑賞会

ベビーカーの赤ちゃんや未就学児など、乳幼児のお子様と一緒にゆっくり作品を観覧していただけるよう、MOMAS コレクション「ファミリー鑑賞会」を企画した。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

期 日	内 容	参加者数
中止	スタッフによる作品解説及び観覧サポート	—

## 6 子供向け事業

### (1) 「MOMASのとびら」

主に土曜日に「MOMASのとびら」としてワークショップを開催した。

各ワークショップは、職員を中心に、授業連携をしている埼玉大学の学生や当館ボランティア「教育普及サポート・スタッフ」の協力を得て実施した。アーティストを講師に招くこともある。

令和3年度より、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、より安全に実施できるプログラムに絞って、全て事前予約制で実施することとした。各回の定員を少人数にすることで参加者が限られてしまうため、プログラムによっては同じ内容を複数回行うようにした。

令和4年度は、感染状況を踏まえつつ、12月以降のプログラムは定員数を増やして実施した。

#### ア 「みる+つくる」

MOMASコレクションや企画展を鑑賞し、それをもとに工作などを行った。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和4年 10月8日	「どんなどころに行こうかな？夢みるトランク！」	12人	9人
10月22日	※10月8日と同様。	〃	9人
11月5日	※10月8日と同様。	〃	9人
12月10日	「ガクガク？わくわく？額縁をつくろう！」	18人	10人
12月17日	※12月10日と同様。	〃	11人

#### イ 「親子クルーズ」

MOMASコレクションや企画展を親子で鑑賞し、それをもとに工作などを行った。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和4年 6月25日	「かく かく しかくでランプを作ろう！」	6組	6人
7月2日	※6月25日と同様。	〃	10人
令和5年 2月4日	「みえない気持ちをかたちにしたら」	〃	12人
2月11日	※2月4日と同様。	〃	12人

ウ 「み～っけ！」

幼児（4歳から）とその保護者の美術館デビューをねらい、美術館でのできごとを体いっぱい楽しむプログラムを行った。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和4年 6月 4日	「キラキラ枢機卿に大変身！」	6組	12人
6月11日	※6月4日と同様。	〃	11人
11月19日	「かく、カク、カラフル かがやく四角！」	〃	10人
12月 3日	※11月19日と同様。	〃	14人

エ 「工房」

美術館ならではの作品づくりを楽しむプログラムを行った。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和4年 7月16日	「板から椅子ができた！」	12人	11人
7月23日	※7月16日と同様。	〃	10人
令和5年 1月21日	「板から椅子ができた！」	18人	13人
1月28日	※1月21日と同様。	〃	9人
3月 4日	「ザラザラ？つるつる？肌で感じて美術館！」	〃	14人
3月11日	※3月4日と同様。	〃	18人

オ 「彫刻あらいぐま」

屋外彫刻を親子で洗って鑑賞するプログラムを行った。彫刻ボランティアが講師として活動した。

期 日	内 容	定員	参加者数
令和4年 5月 7日	「洗ってみよう 彫刻作品」	2組	5人
5月14日	〃	〃	4人
9月10日	〃	〃	4人
9月17日	〃	〃	2人

## カ 「フリープログラム」

天候・会場等に合わせ、誰でも気軽に参加できるプログラム。  
プログラムの内容や会場等に応じて、時間制で複数回実施した。

期 日	内 容	参加者数
令和4年 4月 9日	①「洗濯ばさみで絵を描こう！」 ②「MOMAS探検隊！」	33人
4月23日	①「洗濯ばさみで絵を描こう！」 ②「MOMAS探検隊！」	36人
4月30日	①「お気に入りの椅子をみつけよう！」 ②「MOMAS探検隊！」	20人
8月13日	台風接近のため中止	—
10月 1日	①「お気に入りの椅子をみつけよう！」 ②「洗濯ばさみで絵を描こう！」	47人
令和5年 1月14日	①「洗濯ばさみで絵を描こう！」 ②「カクカクつなげて遊ぼう！」	87人

### ※内容詳細

- ・「風を描こう！」風になったつもりでアクリルボードに風景を描いたり、描いた風景に登場したりして楽しむ。
- ・「カクカクつなげて遊ぼう！」松本薫《Cycle90°》の形や動きの面白さに気付き、作品づくりを楽しむ。
- ・「お気に入りの椅子をみつけよう！」グッドデザインの椅子を鑑賞し、お気に入りの見つけて楽しむ。
- ・「MOMAS探検隊！」館内を巡り、作品を見つけたり美術館の裏側を見たりして楽しむ。

## キ 「サマー・アドベンチャー」

夏休み期間限定の特別プログラムを行った。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和4年 8月 6日	「お面をつくろう！」 (講師：平島鉄也氏【造形作家】)	12人	12人
8月13日	フリープログラム (台風接近のため中止)	-	—
8月20日	「かっこいい緑をつくろう！」 (講師：内海聖史氏【画家】)	10人×2部	22人
8月27日	みる+つくる	10人	9人

## ク 「もますまつり」

県民の日に、誰でも参加できるプログラムを行った。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和4年 11月14日	①「風を描こう！」 ②「カクカクつなげて遊ぼう！」	-	75人

## (2) 「夏休みMOMASステーション」

夏休みに来館した子供たちが美術館を効果的に活用できるよう、情報提供やアドバイス等を行った。

※小中学校の夏休み期間に合わせ、休館日を除き毎日開催 (7/16～8/25、37日間)

令和4年度利用者数：1,385人

### (3) 「夏休みガイド・ツアー」

来館した小・中学生を主な対象として、夏休み期間中に3回程度、各回午前中の30分間、常設展示室をサポート・スタッフが対話型の鑑賞を行いながら案内する。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

## 7 学校との連携

### (1) 教員美術講座の開催

美術館を活用した鑑賞指導に関する講演会等を開催し、学校における美術館利用促進と鑑賞教育の充実を図る。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和4年 8月10日	「右脳でつくる！オリジナルりんご」 (講師：代 淳子／行田市見沼中学校 教諭)	20人	18人

### (2) 埼玉大学との授業連携・他大学との協力

埼玉大学の学生が、美術館の教育普及事業に参画した場合、その活動を大学の単位として認定する。※令和4年度単位認定：11人

また、他大学の学生からも、様々な教育普及事業への協力を得た。

### (3) 博物館実習生の受入れ

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要領」に基づき、学芸員志望の学生向けに実習を行った。

※令和4年度受入：13大学 17人

### (4) 学校を含めた団体利用の受入れ

以下の7つの内容を組み合わせて鑑賞・体験学習を行った。

- ① 1階展示室「MOMAS コレクション」案内
- ② 2階展示室「企画展」案内
- ③ かならず出会える作品たち（屋外彫刻）案内
- ④ グッドデザインの椅子鑑賞
- ⑤ ワークショップ「洗濯ばさみで絵を描こう！」等
- ⑥ アートカードを使った鑑賞
- ⑦ バックヤード見学

※令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、⑤、⑥の実施を見送った。

※令和4年度実績：28団体 1,461人

## (5) 学校への授業協力

以下の内容の他、実態やねらいに合わせて出張授業を行った。

- ①「知ってる？ピカソ！」
- ②「日本画って何だろう？」
- ③「みつめよう！シャガールさんのこの思い」
- ④「見て★座って！お気に入りの椅子を見つけよう！」
- ⑤「洗濯ばさみで絵を描こう！」

※令和4年度実績：42校 118学級 3,550人

## (6) 研修協力

依頼に応じて、各学校の校内研修や市町村単位での図工・美術の授業研究において講義等を行った。

※令和4年度実績：5回 79人

## (7) 複製画やアートカードの貸し出し

当館収蔵作品の複製画や複製パネル、アートカードなどの教材を学校に貸し出した。

※令和4年度実績：32件 154点

## (8) 「ミュージアム・キャラバン」の実施

県内の学校をアーティストと共に訪問してワークショップを行い、鑑賞や制作活動を通して児童生徒に美術の楽しさや美術的な価値観・視点を伝えるための授業を行った。令和4年度は2校で実施した。

- ①2月15日「身の回りの物を塗りつぶして、立体的な絵を描こう」

実施校：青山学院大学系属浦和ルーテル学院小学校6年 44人

講師：末永史尚氏（美術家）

- ②2月27日「影のワークショップ」

実施校：所沢市立三ヶ島小学校1年 47人

講師：青木聖吾氏（美術家）

## (9) 公募プログラム「カラダで・みる、うごいて・みる！」の開催

美術館における教育普及活動の価値を広くアピールし、学校連携の強化・継続を図るため、県内の学校を対象とした公募プログラムを実施した。

令和4年度は、当館収蔵作品の鑑賞をもとに受け取ったイメージを、身体を使った動きで表現し、短い映像に記録したものを募集した。

13グループ、計103人が参加。

## 8 ボランティア活動

### (1) 美術館サポーター

常設展の解説ガイドを行うボランティアとして平成12年に発足したもので、美術館が月1回開催する研修会への出席をはじめ、自主的な研修を重ねている。主な活動として、「MOMASコレクション」開催中の毎日、午後2時から30分程度、来館者の鑑賞を支援するため、美術館サポーターが1階展示室内において作品解説を行っている。

令和4年度は、展示室外で感染対策を講じながら不定期に実施した。研修会も感染対策を講じて行い、状況によっては資料送付のみ行った。

※令和4年度登録者数：38人

### (2) 教育普及サポート・スタッフ

「夏休みMOMASステーション」、ツアーガイド、「MOMASのとびら」等の教育普及事業をサポートするボランティア・スタッフ、教員や美術教育に関心をもつ学生等が参加し、毎年6月中旬から7月初めまでに行う研修を経て、1年間の任期で活動を行った。

※令和4年度登録者数：113人

### (3) 彫刻ボランティア

平成29年度より、彫刻ボランティアは土曜日の子供向け普及事業「MOMASのとびら」において、彫刻洗浄プログラムを行う際の外部講師として活動している。令和3年度より洗浄プログラムの各回の定員を制限する代わりに、春季と秋季に2回ずつ（春季：5/8、15 秋季：9/11、18）実施することとしたが、春季は新型コロナウイルス感染症対策のため2回とも中止した。秋季は、1回は実施できたが、1回は台風のため中止となった。

※令和4年度登録者数：9人

## 9 「椅子」の有効活用

国内外のグッドデザインの椅子を、入館者に自由に鑑賞してもらう。

これらの椅子は、企画展やMOMASコレクションの展示替えに合わせて、定期的に入れ替えを行い、常時20脚から30脚程度を館内の各所に配置するとともに、当館ホームページの「今日座れる椅子」コーナーで紹介してきたが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、椅子の数を減らすとともに、鑑賞のみで座れない形での配置とした。

また、学校への授業協力や「MOMASのとびら」プログラムでも活用した。

10 一般展示室の利用状況

No.	展覧会名	開催期間 R4年度		開催 日数 (日)	利用室	分 野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
1	第50回記念主体美術武蔵野作家展	4月5日	4月10日	6	2・3	油彩	89	562	93
2	第35回漢水会展	4月5日	4月10日	6	4	日本画、水彩、油彩、書、水墨画	59	561	93
3	第37回さいたま蘭秀展	4月12日	4月17日	6	1	書	51	563	93
4	第8回栗田ひさし・梨伽の絵画二人展	4月12日	4月17日	6	3	日本画、水彩、水墨画	55	510	85
5	第14回彩ポタニカルアート展	4月12日	4月17日	6	4	水彩	48	578	96
6	第16回フォト・トルトゥーガ写真展	4月19日	4月24日	6	2	写真	50	483	80
7	2022 阿佐見昭彦写真展 記憶する眼 II	4月19日	4月24日	6	3	写真	38	504	84
8	創立45周年記念 埼玉女流工芸展	4月28日	5月1日	4	1	工芸	155	1,144	286
9	現代中国芸術国際交流展第4回目	4月25日	5月1日	6	2・3	日本画、水彩、油彩、書	40	466	77
10	第11回五彩展	4月25日	5月1日	6	4	水彩、油彩、コラーージュ	60	778	129
11	第24回埼玉二科展	5月2日	5月7日	6	1~4	油彩、彫刻、デザイン	97	1,198	199
12	第70回記念埼玉県美術展覧会	6月1日	6月23日	20	1~4	日本画、油彩、彫刻、工芸、書、写真	1,961	23,104	1,155
13	第41回埼玉県高等学校写真連盟写真展	7月6日	7月10日	5	1	写真	495	1,011	202
14	第27回基の会展	7月5日	7月10日	6	2	油彩	27	314	52
15	思い出の作品展(若柳 佳子)	7月5日	7月10日	6	4	油彩、彫刻	46	312	52
16	第20回記念埼玉独立展	7月12日	7月17日	6	1~3	油彩	60	661	110
17	第1回エスポワール絵画展	7月12日	7月17日	6	4	水彩	38	635	105
18	第48回埼玉二科展	7月19日	7月24日	6	1~4	油彩、彫刻	130	867	144
19	第16回公募 書<縁en>展・3人書展—良寛を語る—保坂春翔、中山信龍、 作村光風	7月26日	7月31日	6	1~4	書	330	631	105
20	第31回旺玄会埼玉支部展	8月2日	8月7日	6	2~4	日本画、水彩、油彩、版画、アクリル	80	464	77
21	第56回埼玉平和美術展	8月9日	8月14日	6	1~4	水彩、油彩、版画、彫刻、インスタレーション	331	1,278	213
22	廻ノ帰 ネモトサトコ、大喜多愼子二人展	8月16日	8月28日	10	4	油彩、ドローイング、アクリル	16	962	96
23	墨芳誌800号記念 第34回墨芳展	8月24日	8月28日	5	1・3	書	111	664	132
24	第7回現代アート実験02展	8月23日	8月28日	6	2	油彩、ドローイング、版画、書、ミクストメディア	50	544	90
25	キルトリーダーズ埼玉 パッチワークキルト作品展2022	8月30日	9月4日	6	1	パッチワークキルト	306	800	133
26	2022モダンアート展	8月30日	9月4日	6	2・3	水彩、油彩、版画、彫刻	29	593	98
27	ヨシズミ トシオ展	8月30日	9月11日	12	4	油彩、版画、水墨画	48	1,031	85
28	第60回記念新構造埼玉展	9月6日	9月11日	6	1	水彩、油彩、彫刻、写真	84	782	130
29	第12回関口健司展	9月6日	9月11日	6	2	水彩	21	368	61
30	第12回ニコールクラブさいたま支部写真展	9月6日	9月11日	6	3	写真	65	536	89
31	第65回記念埼玉書道展	9月16日	9月18日	3	1~4	書	757	1,100	366
32	第35回埼玉創元展(公募)	9月20日	9月25日	6	1	日本画、水彩、油彩、版画	63	732	122
33	第30回工芸新樹会公募展	9月20日	9月25日	6	2	工芸	47	529	88
34	フォトグループWAVE 第36回写真展	9月20日	9月25日	6	3	写真	91	643	107
35	一蓮托生展 付 鴻雁	9月20日	9月25日	6	4	油彩、アクリル	37	602	100
36	第39回埼玉県写真サロン	9月27日	10月2日	6	1	写真	390	1,089	181
37	第14回フォトサークル・オプト写真展	9月27日	10月2日	6	2	写真	229	1,024	170
38	第40回キャンノンフォトクラブ浦和写真展	9月27日	10月2日	6	3	写真	38	719	119

No.	展覧会名	開催期間 R4年度		開催 日数 (日)	利用室	分野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
39	第26回西道会美術展	9月27日	10月2日	6	4	水彩、油彩、版画	50	582	97
40	第54回第一美術協会埼玉支部展	10月4日	10月9日	6	1	日本画、水彩、油彩、版画	182	1,086	181
41	第55回埼玉三軌展	10月4日	10月9日	6	2・3	日本画、水彩、油彩	57	562	93
42	第36回漢水会展	10月4日	10月9日	6	4	日本画、水彩、油彩、書、水墨画	43	566	94
43	第18回水彩連盟西支部展	10月11日	10月16日	6	1	水彩	50	702	117
44	第21回美術協会純展・埼玉支部展	10月11日	10月16日	6	2	水彩、油彩、ペン画	40	602	100
45	第37回アート現宇	10月11日	10月16日	6	3	油彩、アクリル	28	458	76
46	2022縁の会 三人展	10月11日	10月16日	6	4	日本画、水彩、油彩、ドローイング	51	537	89
47	第6回公募ZEN展	10月18日	10月23日	6	1	日本画、水彩、油彩、ドローイング、イラスト	195	975	162
48	第23回地平展	10月18日	10月23日	6	2	日本画、水彩、油彩、ドローイング、インスタレーション	55	582	97
49	截金工芸展(町田 筑泉)	10月18日	10月23日	6	3	工芸	100	369	61
50	全日本写真連盟 浦和支部写真展	10月18日	10月23日	6	4	写真	43	525	87
51	第43回太平洋埼玉展	10月25日	10月30日	6	1	水彩、油彩、版画、染織	87	815	135
52	第15回悠友展	10月25日	10月30日	6	2・3	水彩、油彩	42	673	112
53	むさしの木彫会第三回展 祈りのかたち仏像彫刻展	10月25日	10月30日	6	4	彫刻	58	756	126
54	2022CAFネビュラ展	11月2日	11月13日	11	1~4	日本画、水彩、油彩、版画、インスタレーション	91	3,030	275
55	第61回埼玉県高等学校書道展覧会	11月16日	11月20日	5	1~4	書	673	984	196
56	第65回埼玉県高校美術展	11月23日	11月27日	5	1~4	日本画、水彩、油彩、ドローイング、映像メディア	797	2,608	521
57	Sound Collection~音を感じる写真展~(長田 広恵)	11月29日	12月4日	6	4	写真	37	436	72
58	第13回埼玉県障害者アート企画展	12月7日	12月11日	5	1・2	日本画、水彩、油彩、ドローイング、版画	700	1,260	252
59	旅の記憶(野口 泰久展)	12月6日	12月11日	6	4	写真	45	453	75
60	第56回全日本書道芸術院	12月13日	12月18日	6	1・2	書	220	371	61
61	北 直人個展 TOTEM	12月13日	12月18日	6	3	インスタレーション	35	128	21
62	第57回「郷土を描く児童生徒美術展」	12月24日	12月25日	2	1~4	水彩	120	636	318
63	第25回記念 涼の会展	1月10日	1月15日	6	1~4	日本画、水彩、油彩、彫刻	162	586	97
64	文教大学教育学部学校教育課程美術専修 卒業制作展	1月24日	1月29日	6	1	日本画、水彩、油彩、ドローイング	123	589	98
65	COLOR(鶴巻 真由実)	1月24日	1月29日	6	3	水彩、油彩、ドローイング、書	64	480	80
66	文教大学美術専修 0B・0G展	1月24日	1月29日	6	4	日本画、水彩、油彩、彫刻、デジタル画	19	423	70
67	第46回埼玉国展	1月31日	2月5日	6	1	油彩、写真	66	654	109
68	第42回野美展	1月31日	2月5日	6	2	日本画、水彩、油彩	61	690	115
69	令和4年 埼玉県立美術系高等学校 作品展・卒業制作展	2月8日	2月12日	5	1~4	日本画、水彩、油彩、ドローイング、ミクストメディア	800	1,725	345
70	令和4年度 第63回埼玉県小・中学校等児童生徒美術展 第15回中央展	2月18日	2月19日	2	1	水彩、版画、彫刻、工芸	100	903	451
71	令和4年度 埼玉大学教育学部図画工作・芸術分野 卒業制作展	2月14日	2月19日	6	2~4	油彩、ドローイング、彫刻、視覚伝達デザイン	442	1,649	274
72	山田 郁子展	2月21日	2月26日	6	1	油彩	70	938	156
73	女子美術大学同窓会埼玉支部作品展「第14回 彩の会」	2月21日	2月26日	6	2~4	日本画、水彩、油彩、ドローイング、版画	86	1,149	191
74	第19回ネーチャーフォト支部写真展	2月28日	3月5日	6	4	写真	72	566	94
75	第48回埼玉書道三十人展	3月7日	3月12日	6	1	書	44	1,739	289
76	第46回埼玉現展	3月7日	3月12日	6	3・4	日本画、水彩、油彩、写真、CGデザイン	80	933	155
77	夢のかけらをくもにまく TAKARABUNE2023	3月15日	3月19日	5	1	アート全般	205	717	143

No.	展覧会名	開催期間 R4年度		開催 日数 (日)	利用室	分野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
78	第10回植物業の会作品展	3月14日	3月19日	6	2	水彩	200	1,395	232
79	第12回五彩展	3月14日	3月19日	6	3	油彩、和紙、コラージュ	38	659	109
80	立体的写真の世界(桃井 照直)	3月14日	3月19日	6	4	写真	46	510	85
81	第28回彩の国さいたまきりえ展	3月21日	3月26日	6	2	きりえ	73	1,094	182
82	第7回ポローニア展	3月21日	3月26日	6	3	油彩、工芸、パステル画	34	604	100
83	彩の国写真倶楽部第18回展	3月21日	3月26日	6	4	写真	45	766	127
84	加藤 義雄展	3月28日	4月2日	6	2・3	水彩、油彩、ドローイング	405	913	152
85	神保ふみえ・安原竹夫展	3月28日	4月2日	6	4	水彩、油彩、工芸	42	619	103
		44週	合計	257日			合計	89,339人	347人
		(内訳)	県展以外	237日			県展以外	66,235人	279人
			県展	20日			県展	23,104人	1,155人

埼玉県立近代美術館 一般展示室利用状況（年度別）

令和5年3月31日現在

年度		一般展示室					備考
		1 (612.8㎡)	2 (231.5㎡)	3 (138.9㎡)	4 (161.3㎡)	計 (1,144㎡)	
20	利用可能週	51	51	51	51	204	106件
	利用週	51	50	49	50	200	
	利用率	100%	98.0%	96.1%	98.0%	98.0%	
21	利用可能週	51	51	51	51	204	103件
	利用週	48	45	50	51	194	
	利用率	94.1%	88.2%	98.0%	100%	95.1%	
22	利用可能週	52	52	52	52	208	102件
	利用週	48	48	48	48	192	
	利用率	92.3%	92.3%	92.3%	92.3%	92.3%	
23	利用可能週	51	51	51	51	204	107件
	利用週	46	46	48	47	187	
	利用率	90.2%	90.2%	94.1%	92.2%	91.7%	
24	利用可能週	51	51	51	51	204	113件
	利用週	45	49	50	51	195	
	利用率	88.2%	96.1%	98.0%	100.0%	95.6%	
25	利用可能週	19	19	19	19	76	40件
	利用週	19	19	19	19	76	
	利用率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
26	利用可能週	19	19	19	19	76	44件
	利用週	19	19	19	19	76	
	利用率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
27	利用可能週	47	47	47	47	188	112件
	利用週	45	44	46	47	182	
	利用率	95.7%	93.6%	97.9%	100.0%	96.8%	
28	利用可能週	48	48	48	48	192	104件
	利用週	43	37	42	46	168	
	利用率	89.6%	77.1%	87.5%	95.8%	87.5%	
29	利用可能週	47	47	47	47	188	100件
	利用週	44	38	40	42	164	
	利用率	93.6%	80.9%	85.1%	89.4%	87.2%	
30	利用可能週	47	47	47	47	188	92件
	利用週	39	37	36	38	150	
	利用率	83.0%	78.7%	76.6%	80.9%	79.8%	
元	利用可能週	43	43	43	43	172	86件
	利用週	38	34	35	40	147	
	利用率	88.4%	79.1%	81.4%	93.0%	85.5%	
2	利用可能週	39	39	39	39	156	40件
	利用週	16	12	15	22	65	
	利用率	41.0%	30.8%	38.5%	56.4%	41.7%	
3	利用可能週	50	50	50	50	200	61件
	利用週	29	25	24	28	106	
	利用率	58.0%	50.0%	48.0%	56.0%	53.0%	
4	利用可能週	46	46	46	46	184	85件
	利用週	37	39	39	42	157	
	利用率	80.4%	84.8%	84.8%	91.3%	85.3%	

※利用実績には県展を含む【R2及びR3を除く(未実施のため)】

■入館状況

■令和4年度入館者数一覧

令和5年3月31日現在

	入館者数	展 示 事 業						普 及 事 業				貸 館 事 業		
		MOMAS コレクション	企 画 展 示					企画展 関連	MOMAS コレクション 関連	教育・普及 関連	資料閲覧室	一 般 展示室	埼玉県美術 展覧会	
			開館40周年 記念展	田中保とその 時代	桃源郷通行 許可証	戸谷成雄	企画展計							
開 催 期 間	4/1(金) ～ 3/31(金)	4/1(金) ～ 3/31(金)	4/1(金) ～ 5/15(日)	7/16(土) ～ 10/2(日)	10/22(土) ～ 1/29(日)	2/25(土) ～ 3/31(金)		9/10(土) ほか		4/9(土) ほか	4/1(金) ～ 3/31(金)	4/5(火) ～ 4/2(日)	6/1(水) ～ 6/23(木)	
(日) 数	307	292	40	71	81	30	222	18	-	54	141	237	20	
(人) 数 観 覧 者 数 利 用 者 数	149,572	31,680	4,550	9,924	6,825	2,579	23,878	619	-	910	831	66,235	23,104	
(人) 数 1 日 当 たり 平 均	487	108	113	139	84	85	107	34		16	5	279	1,155	
有 料	一般個人	入館料 無 料	8,401	2,209	5,413	2,617	1,217	11,456	-	-	-	-	-	-
	一般団体		1,326	236	505	207	104	1,052						
	大高個人		912	214	286	222	113	835						
	大高団体		59	8	15	6	5	34						
	(人) 数 合 計		10,698	2,667	6,219	3,052	1,439	13,377						
無 料	-	20,982	1,883	3,705	3,773	1,140	10,501	-	-	-	-	-	-	

月別入館者数

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
(人) 数 入 館 者 数	10,567	11,072	26,596	9,018	9,796	13,945	13,157	13,807	6,961	8,338	11,470	14,845	149,572

## 令和4年度 決算の概要

(単位：千円)

事業名	予算額	割合 (%)	決算額	割合 (%)	残 額
企画展事業費	46,024	20.3%	42,549	21%	3,475
美術館管理運営費	67,006	29.6%	64,226	31%	2,780
教育財産管理費	18,261	8.1%	8,864	4%	9,397
事務局費〔経常費〕 (財務課で計上)	95,090	42.0%	88,769	43%	6,321
合 計	226,381	100%	204,408	100%	21,973

(収 入)

(単位：千円)

区 分	予算額	割合 (%)	決算額	割合 (%)	増減額	増減率 (%)
観 覧 料 収 入	14,829	7%	14,680	7%	△ 149	-1%
一般展示室等使用料	12,199	5%	12,560	6%	361	3%
行政財産使用料	4,644	2%	4,485	2%	△ 159	-3%
図録等売払収入	2,861	1%	2,813	1%	△ 48	-2%
助 成 金	3,000	1%	3,000	1%	0	-
そ の 他	392	0%	409	0%	17	4%
一 般 財 源	188,456	83%	166,461	81%	△ 21,995	-12%
合 計	226,381	100%	204,408	100%	△ 21,973	-10%

# 令和5年度 事業実施状況

## 1 常設展示事業

### (1) MOMASコレクション（常設展）の開催

年間を4つの会期に分け、会期毎に名品を核とした「セレクション」コーナーや多彩なテーマを掲げたコーナーを設定し、作品の魅力を紹介する（一部、借用作品を含む）。

（※有料観覧者数には、企画展観覧券付属の招待券で入場した人数を含む。）

会期	内 容	展 示 作品数	期 間	観覧者数
5/13 ～ 8/27	○「セレクション：企業の支援によるコレクション」 埼玉りそな銀行（旧埼玉銀行）のご支援で開館当初に収蔵された主な作品を取り上げ、当館のコレクションの形成について振り返る。埼玉りそな銀行開業20周年に関連した展示。  ○「MOMASノ海」 埼玉に、潮の薫りを。海をテーマにした作品を紹介。	47点	自 5月13日（土）  至 8月27日（日）  (86日間)  ※7月15日～8月27日は、MOMASコレクションの観覧料を無料とする「埼玉りそな銀行フリーデー」を実施。	10,439人 1日当たり 139人  うち有料観覧者数 3,611人 1日当たり 48人 (※参照)  (8月15日現在)
9/2 ～ 11/26	○「セレクション」 モーリス・ドニ、瑛九ほか、MOMASコレクションの名品を紹介。  ○「特集：須田剋太」 埼玉出身の画家・須田剋太は、生命感あふれる力強い抽象画を数多く制作した。当館の須田剋太コレクションを紹介。	一点	自 9月2日（土）  至 11月26日（日）  (76日間)	一人 1日当たり 一人  うち有料観覧者数 一人 1日当たり 一人
12/2 ～ R6/2/25	○「セレクション」 モネほか、MOMAS コレクションの名品を紹介。  ○「魅惑のリアリズム」 倉田弟次郎、上田薫など近現代の作家による「リアル」な表現に注目し、その多彩な魅力を紹介。	一点	自 12月2日（土）  至 令和6年 2月25日（日）  (68日間)	一人 1日当たり 一人  うち有料観覧者数 一人 1日当たり 一人

会期	内 容	展 示 作品数	期 間	観覧者数
R6/3/2 ～ 6/2	<p>○「セレクション」 ピカソほか、MOMASコレクションの名品を紹介。</p> <p>○「チェアーズー椅子の美術館」 当館が所蔵するデザイン椅子を一挙公開。「椅子の美術館」としての歩みをたどる。</p> <p>○「さいきんのたまもの」 田中保や正木隆の作品など、近年の新たな収蔵品を紹介。</p>	一点	自 令和6年 3月2日（土）  至 令和6年 6月2日（日）  （78日間）	一人 1日当たり 一人  うち有料観覧者数 一人 1日当たり 一人

## (2) サンデー・トークの開催

MOMASコレクションで展示中の収蔵作品から1点を選んで、当館学芸員が解説する。  
(年10日程度実施予定)

## 2 企画展示事業

### (1) 企画展の開催

特定のテーマのもとに、国内外の作品を年4回展示する。

展覧会名	内 容	作品数 (予定)	期 間	観覧者数 (予定)
戸谷成雄 彫刻	戸谷成雄（1947-）は1970年代から彫刻家としてのキャリアをスタートさせ、戦後の日本美術における彫刻表現を牽引してきた。本展では初期作品のほか、「森」、「ミニマルバロック」シリーズを含む代表作を紹介し、その活動の全貌を振り返る。	約40点	自 2月25日（土） 至 5月14日（日）  (69日間／ R5年度・39日間)	令和5年度観覧者 5,417人 1日当たり 138人  うち有料 観覧者数 3,189人 1日当たり 81人  R4・R5 観 覧者数計 7,996人
横尾龍彦 瞑想の彼方	横尾龍彦（1928-2015）は、日本とドイツを往来しながら活躍した画家である。1960年代後半、神話や聖書を題材とした幻想画を描き、澁澤龍彦や種村季弘ら著名人に認められた。1980年以降には、禅やルドルフ・シュタイナーの思想に影響を受け、瞑想によって湧き上がるイメージを、絵具の激しい飛沫やダイナミックな描線によって抽象的に表現するようになった。晩年は埼玉県内のアトリエを拠点に、制作やワークショップに尽力しました。本展では、その活動の全貌を紹介する。	約145点	自 7月15日（土） 至 9月24日（日）  (65日間)	(7月末 現在) 1,631人 1日当たり 108人  うち有料 観覧者数 829人 1日当たり 55人  観覧者 見込 約12,000 人

展覧会名	内 容	作品数 (予定)	期 間	観覧者 見 込
イン・ビトウィーン	<p>本展では、1930年代から50年代にかけてシュルレアリスムの表現を探究した画家・早瀬龍江（1905-1991）、「もの派」の理論形成に影響を与える一方、版画やドローイング、水墨によるコンセプチュアルな作品を手がけた林芳史（1943-2001）などの足跡を当館のコレクションを中心にたどる。自身の身体的な感覚を拠りどころに、日常や歴史、国境などさまざまな境界の間に立ち、往還を試みるアーティストたちの眼差しを紹介する。</p>	調整中	<p>自 10月14日（土） 至 1月28日（日）  （85日間）</p>	約 16,000 人
アブソリュート・チェアーズ	<p>美術の中の椅子は、権威の象徴として、記憶の依り代として、あるいは拡張された身体として、さまざまな機能や象徴性をまとっている。椅子という身近でありながら特異な造形物の背後には、どのような哲学や思想を見出せるだろうか。デザインの文脈を離れ、現代のアーティストによる平面・立体・映像作品を通して、「究極・絶対」なるものとしての椅子に迫る。</p>	調整中	<p>自 2月17日（土） 至 5月12日（日）  （76日間／ R5年度・38日間）</p>	約 7,000 人 (R5年度 見込)

## (2) アーティスト・プロジェクトの開催

MOMAS コレクションや企画展の枠を超え、現在活躍しているアーティストを紹介する展示プログラムとして開催する。

展覧会名	内 容	作品数 (予定)	期 間	観覧者 見 込
アーティスト・プロジェクト#2.07 永井天陽 遠回りの 近景	永井天陽（1991-）は、アクリル材や剥製、既製品など、異なる素材を重ね合わせることで、多重の境界をもつ彫刻作品を制作してきた。内と外が主張し合いながら一体化する作品群は、表層とかたち、輪郭の関係を揺らがせ、日常の認識を問いかける。本展示では、永井の最新作を交えたインスタレーションを館内各所で行う。	調整中	自 10月14日（土） 至 1月28日（日） （85日間）	—

## (3) 関連事業等の開催

企画展について理解を深めるため、関連事業等を開催している。

### ア 横尾龍彦 瞑想の彼方

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
9月10日（日）	特別対談 鎌田東二氏 ×水沢勉氏	鎌田東二（京都大学名誉教授）×水沢勉（神奈川県立近代美術館館長）	60人	—

## (4) ギャラリー・トークの開催

より充実した鑑賞の機会とするため、担当学芸員による展示解説を実施している。

企画展	実施日	参加人数
横尾龍彦 瞑想の彼方	7月15日（土） 8月6日（土）	26名 27名

## (5) ミュージアム・シアターの開催

映画や音楽、パフォーマンスといった、展覧会での紹介が難しい表現について取り上げるプログラムとして、テーマを定めてミュージアム・シアターを開催する。  
本年度のテーマは調整中。

### 3 美術作品収集事業

近現代美術を対象に、本県にゆかりのある作家及び本県の実術界に影響を与えた国内外の作家の作品を収集する。

### 4 一般向け普及事業

#### (1) ミュージアム・レクチャーの開催

多くの方々に美術および関連領域に親しんでもらうため、レクチャーを含むプログラムを開催する。内容については当館で開催する展覧会や収蔵作品と必ずしも結び付けず、聴講者が今後当館だけでなく様々な場で作品を鑑賞する時や、制作を行う際の刺激となることをねらいとする。

期 日	内 容	講 師	定員等
調整中	日本画に関すること	調整中	・定員：内容等に応じて設定 ・参加費：無料

#### (2) 一般団体案内

企画展やMOMASコレクション展を観覧する2名以上の団体を対象に、スライドによる案内（「スライド・トーク」）を行う。内容は、展覧会の見どころや作品解説、美術館全体の案内、屋外彫刻の解説など、希望に応じた内容・時間で対応する。

なお、視覚障がい者を対象としたガイドや講座も受け付ける。

#### (3) 資料閲覧室の運営

国内外の美術図書、雑誌を公開するとともに、美術情報の提供や資料相談を行う。

開室日時：火・木・土曜日の13時～17時

#### (4) 広聴広報活動

ア 来館者の意見を美術館活動に反映していくため、アンケートコーナーを設置。

併せて、企画展、MOMASコレクション、普及関連の講座等にあわせてアンケート調査を実施する。

イ アンケートやインターネットで受け付けた質問や要望に対し、随時回答を行う。

ウ 広報紙「ソカロ(MUSEUM NEWS)」、「MUSEUM CALENDAR」及び企画展ポスターやちらし、学校向けの利用案内等を作成し、県内の情報拠点や全小・中・高、特別支援学校、全国の実術館等に配布する。

エ 美術館ホームページやTwitter、Facebook、YouTubeを活用して、企画展やMOMASコレクション、その他の様々な催し物の内容や利用案内など、最新の美術館情報を発信する。

オ プレスリリースの配信、記者発表、プレス内覧会の実施など、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、WEB等各種の媒体に対して積極的なパブリシティに努める。

カ Google Arts & Cultureに参加し、当館のコレクションやストリートビューを全世界に向けて発信する。

キ MOMASコレクション及び企画展の開催にあわせ、JR東日本大宮支社の協力を得て北浦和駅構内にポスターを掲出する。

ク 北浦和地区の自治会、商店会との協力関係を築き、企画展チラシの回覧や掲示を行う。

ケ 埼玉りそな銀行北浦和西口支店の協力を得て、同店の大型ディスプレイにて美術館の情報を発信する。

コ 県民の日にMOMASコレクション観覧料無料サービスを実施する。

## 5 美術館の利用促進事業

### (1) 北浦和公園ポリス・コンサート

北浦和公園を活用し、美術館利用を促進するため、下記の事業に協力する。  
(大雨の影響により、主催者の判断で中止。)

期 日	内 容	場 所	客席	参加者数
令和5年 6月3日(土) ※中止	「北浦和公園ポリス・コンサート」 出演：埼玉県警察音楽隊・カラーガード隊 主催：埼玉県警察本部広報課	北浦和公園	—	—

### (2) ファミリー鑑賞会

ベビーカーの赤ちゃんや未就学児など、乳幼児のお子様と一緒にゆっくり作品を観覧していただけるよう、MOMASコレクション「ファミリー鑑賞会」を実施する。

期 日	内 容	参加者数
調整中 (年2回、 平日の午前中)	スタッフによる作品解説及び観覧サポート	—

## 6 子供向け事業

### (1) 「MOMASのとびら」

主に土曜日に「MOMASのとびら」としてワークショップを開催する。

各ワークショップは、職員を中心に、授業連携をしている埼玉大学の学生や当館ボランティア「教育普及サポート・スタッフ」の協力を得て実施する。アーティストを講師に招くこともある。

令和3年度より、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、より安全に実施できるプログラムに絞って、全て事前予約制で実施することとした。各回の定員を少人数にすることで参加者が限られてしまうため、プログラムによっては同じ内容を複数回行うようにした。

令和5年度は人数制限を緩和しながら、事前予約制で実施している。また、一部プログラムは予約なしで参加できるようにしている。

#### ア 「みる+つくる」

MOMASコレクションや企画展を鑑賞し、それをもとに工作などを行う。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和5年 5月20日	「作品をみつめて…額縁をつくろう！」	18人	15人
10月28日	— 調整中 —	〃	—
11月 4日	— 調整中 —	〃	—
12月 9日	— 調整中 —	〃	—
12月16日	— 調整中 —	〃	—

#### イ 「親子クルーズ」

MOMASコレクションや企画展を親子で鑑賞し、それをもとに工作などを行う。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和5年 7月15日	「不思議な果実」	12組	18人
7月22日	※7月15日と同様。	〃	18人
令和6年 2月 3日	— 調整中 —	〃	—
2月10日	※2月 3日と同様。	〃	—

ウ 「み～っけ！」

幼児（4歳から）とその保護者の美術館デビューをねらい、美術館でのできごとを体いっぱい楽しむ。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和5年 6月 3日	「MOMAほうつかいがMOMASをそめる！」	6組	13人
6月10日	※6月3日と同様。	〃	12人
11月25日	— 調整中 —	〃	—
12月 2日	※11月19日と同様。	〃	—

エ 「工房」

美術館ならではの作品づくりを楽しむプログラム。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和5年 6月24日	「まるまる穴だらけのランプシェードを作ろう」	18人	15人
7月 1日	※6月24日と同様。	〃	13人
令和5年 1月20日	— 調整中 —	〃	—
1月27日	— 調整中 —	〃	—
3月 2日	— 調整中 —	〃	—
3月 9日	— 調整中 —	〃	—

オ 「彫刻あらいぐま」

屋外彫刻を親子で洗って鑑賞する。彫刻ボランティアが講師として活動する。

期 日	内 容	定員	参加者数
令和5年 4月29日	「あらって見よう！彫刻作品」	4組	11人
5月13日	雨天のため中止	〃	—
9月 9日	— 調整中 —	〃	—
9月16日	※9月9日と同様。	〃	—

### カ 「フリープログラム」

天候・会場等に合わせ、誰でも気軽に参加できるプログラムを実施する。  
プログラムの内容や会場等に応じて、時間制で複数回実施する。

期 日	内 容	参加者数
令和5年 4月 8日	「洗濯ばさみで絵をかこう！」 「わくわく鑑賞ツアー」	57人
4月22日	「キラキラ・カチカチ・スプーンワールド」 「わくわく鑑賞ツアー」	45人
5月 6日	「風を描こう！」 「カクカクつなげて遊ぼう！」	191人
8月12日	「洗濯ばさみで絵を描こう！」 「わくわく鑑賞ツアー」	212人
10月 7日	— 調整中 —	—
令和6年 1月13日	— 調整中 —	—

### キ 「サマー・アドベンチャー」

夏休み期間限定の特別プログラムを行う。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和5年 8月 5日	「ガムテープのズック屋さん！」 (段ボールと新聞紙でオリジナルの靴をつくる。講師：佐藤いちろう氏)	18人×2部	29人
8月12日	フリープログラムDAY	内容によって異なる	212人
8月19日	「王冠をつくろう！」 (講師：平島鉄也氏)	18人	—
8月26日	「みる+つくる サマー・アドベンチャー特別版」	12人	—

### ク 「もますまつり」

県民の日に、誰でも参加できるプログラムを行う。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和5年 11月14日	— 調整中 —	—	—

### (2) 「夏休みMOMASステーション」

夏休みに来館した子供たちが美術館を効果的に活用できるよう、ボランティアを活用して情報提供やアドバイス等を行う。

※小中学校の夏休み期間に合わせて休館日を除き毎日開催（7/15～8/29、41日間）

### (3) 「夏休みガイド・ツアー」

来館した小・中学生を主な対象として、夏休み期間中に3回程度、各回午前中の30分間、常設展示室をサポート・スタッフが対話型の鑑賞を行いながら案内する。

令和5年度は8月11日に実施。参加者55人。

## 7 学校との連携

### (1) 教員美術講座の開催

美術館を活用した鑑賞指導に関する講演会等を開催し、学校における美術館利用促進と鑑賞教育の充実を図る。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和5年 8月 3日	「造形遊びをとおして図工の時間をアップデートさせよう！」 (講師：石上城行／埼玉大学教育学部芸術講座 教授)	20人	24人
令和5年 8月10日	「色、いろ、イロで、空を舞う！」 (講師：代 淳子／行田市立太田中学校 教諭)	24人	23人

### (2) 埼玉大学との授業連携・他大学との協力

埼玉大学の学生が、美術館の教育普及事業に参画した場合、その活動を大学の単位として認定する。

また、他大学の学生にも、様々な教育普及事業に協力してもらおう。

### (3) 博物館実習生の受入れ

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要領」に基づき、学芸員志望の学生向けに実習を行う。

### (4) 学校を含めた団体利用の受入れ

以下の7つの内容を組み合わせて鑑賞・体験学習を行っている。

- ① 1階展示室「MOMAS コレクション」案内
- ② 2階展示室「企画展」案内
- ③ かならず出会える作品たち（屋外彫刻）案内
- ④ グッドデザインの椅子鑑賞
- ⑤ ワークショップ「洗濯ばさみで絵を描こう！」体験
- ⑥ アートカードを使った鑑賞
- ⑦ バックヤード見学

### (5) 学校への授業協力

以下の内容の他、実態やねらいに合わせて出張授業を行っている。

- ① 「知ってる？ピカソ！」
- ② 「日本画って何だろう？」
- ③ 「みつめよう！シャガールさんのこの思い」
- ④ 「見て★座って！お気に入りの椅子を見つけよう！」
- ⑤ 「洗濯ばさみで絵を描こう！」

### (6) 研修協力

依頼に応じて、各学校の校内研修や市町村単位での図工・美術の授業研究において講義等を行っている。

## (7) 学校等への複製画やアートカードの貸し出し

当館収蔵作品の複製画や複製パネル、アートカードなどの教材を貸し出している。

## (8) 「ミュージアム・キャラバン」の実施

県内の学校をアーティストと共に訪問してワークショップを行い、鑑賞や制作活動を通して児童生徒に美術の楽しさや美術的な価値観・視点を伝えるための授業を展開する。今年度2校で実施予定。

## (9) 公募プログラム

「みつめて、かんじて、たべてみて！-作品のみかた・味わいかた」の開催

美術館における教育普及活動の価値を広くアピールし、学校連携の強化・継続を図るため、県内の学校を対象とした公募プログラムを実施予定。

# 8 ボランティア活動

## (1) 美術館サポーター

常設展の解説ガイドを行うボランティアとして平成12年に発足し、当館が月1回開催する研修会へ参加するとともに、自主的な研修を重ねている。主な活動として、「MOMASコレクション」開催中の毎日、午後2時から30分程度、来館者の鑑賞を支援するため、美術館サポーターが1階展示室内にて作品解説を行う。

※令和5年度登録者数：31人

## (2) 教育普及サポート・スタッフ

「夏休みMOMASステーション」、ツアーガイド、「MOMASのとびら」等の教育普及事業をサポートするボランティア・スタッフ。教員や美術教育に関心をもつ学生等が参加し、毎年6月中旬から7月初めまでに行う研修を経て、1年間の任期で活動を行う。

※令和5年度登録者数：新規26人、継続48人、合計74人

## (3) 彫刻ボランティア

平成29年度より、土曜日の子供向け普及事業「MOMASのとびら」にて、彫刻洗浄プログラムを行う際の外部講師として活動している。

令和5年度は、春季と秋季に2回ずつ実施する。春季は4月29日と5月13日に実施（ただし、5月13日は雨天のため中止）。秋季は9月9日と9月16日に実施予定。

※令和5年度登録者数：7人

# 9 「椅子」の有効活用

国内外のグッド・デザインの椅子を、入館者に自由に鑑賞してもらおう。これらの椅子は、企画展やMOMASコレクションの展示替えに合わせ、定期的に入れ替えを行い、常時20から30脚程度を館内の各所に配置するとともに、当館ホームページの「今日座れる椅子」コーナーで紹介している。また、学校への授業協力等でも活用している。

10 一般展示室の利用状況

令和5年7月31日現在

No.	展覧会名	開催期間 R5年度		開催 日数 (日)	利用室	分野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
1	扇面書画の世界	4月4日	4月9日	6	2	書、水墨画	114	600	100
2	2023 阿佐見昭彦写真展 記憶の迷宮	4月4日	4月9日	6	3	写真	38	732	122
3	溪水会展	4月4日	4月9日	6	4	日本画、水彩、油彩、書、水墨画	49	587	97
4	第38回さいたま蘭秀展	4月11日	4月16日	6	1	書	54	604	100
5	主体美術武蔵野作家展	4月11日	4月16日	6	2・3	油彩、アクリル	75	596	99
6	第9回彩友会ボタニカルアート展	4月11日	4月16日	6	4	水彩	56	742	123
7	群炎埼玉支部展	4月18日	4月23日	6	2	水彩、油彩、工芸、写真、創作人形	65	477	79
8	細田 喜代美展	4月18日	4月23日	6	3	油彩	31	464	77
9	ヨシズミトシオ	4月18日	4月30日	12	4	油彩、版画、水墨画	44	1,037	86
10	第46回埼玉女流工芸展	4月25日	4月30日	4	1	工芸	123	880	220
11	第17回フォト・トルトゥーガ写真展	4月25日	4月30日	6	2	写真	54	790	131
12	矢部彰日本画展 —晩年を生きる私の心の色—	4月25日	4月30日	6	3	日本画	50	309	51
13	第26回埼玉二科展	5月2日	5月7日	6	1~4	水彩、油彩、彫刻、デザイン	109	1,460	243
14	第71回「県展」	5月31日	6月22日	20	1~4	日本画、油彩、彫刻、工芸、書、写真	1,839	18,011	900
15	第42回埼玉県高等学校写真連盟写真展	7月4日	7月9日	6	1	写真	500	1,081	180
16	第28回基の会展	7月4日	7月9日	6	2	油彩	17	394	65
17	第33回白の会展	7月4日	7月9日	6	3	油彩	26	458	76
18	第21回埼玉独立展	7月11日	7月16日	6	1	油彩、アクリル	59	595	99
19	2022埼玉モダンアート展	7月11日	7月16日	6	2・3	水彩、油彩、版画、スペースアート	34	586	97
20	明鏡止水展（付 鴻雁）	7月11日	7月16日	6	4	アクリル	42	529	88
21	第49回埼玉二紀展	7月18日	7月23日	6	1~4	油彩、彫刻	89	1,006	167
22	工藤 信芳展	7月25日	7月30日	6	2	水彩、油彩、コラージュ	54	386	64
23	Sakura Isono 原島辰男 二人展	7月25日	7月30日	6	4	写真、アクリル	46	559	93

令和5年度入館者数一覧（令和5年7月31日現在）

	入館者数	展示事業							普及事業					貸館事業	
		MOMAS コレクション	企画展示					企画展計	企画展 関連	MOMAS コレクション 関連	教育・普及 関連	SMFアート 関連	資料閲覧室	一般 展示室	埼玉県美術 展覧会
			戸谷茂雄 彫 刻	横尾龍彦 展 望の彼方	イン・ビト ウィーン	アブソリュー ト・チェアーズ									
開催期間	4/1(土) ～ 7/31(月)	4/1(土) ～ 7/31(月)	4/1(土) ～ 5/14(日)	7/15(土) ～ 9/24(日)	10/14(土) ～ 1/28(日)	2/17(土) ～ 5/12(日)			7/15(土)	5/21(日) ほか			4/1(土) ～ 7/31(月)	4/4(火) ～ 7/31(月)	5/31(水) ～ 6/22(木)
(日)数	98	94	39	15			54	1	2	30	-	48	54	20	
(人)数 観覧者数 利用者数	56,618	11,575	5,417	1,631			7,048	26	39	1,515	-	413	14,872	18,011	
(人)当 り平均	577	123	138	108			130	26	19	50		8	275	900	
有料	一般個人	入館料 無料	3,239	2,733	712			3,445	-	-	-	-	-	-	-
	一般団体		328	144	48			192							
	大高個人		238	307	69			376							
	大高団体		38	5	0			5							
	(人)計		3,843	3,189	829			4,018							
(人)料 無	-	7,732	2,228	802			3,030	-	-	-	-	-	-	-	

月別入館者数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
(人)入 館者数	13,314	13,105	21,028	9,171									56,618

## 令和5年度 当初予算の概要

(支 出)

(単位：千円)

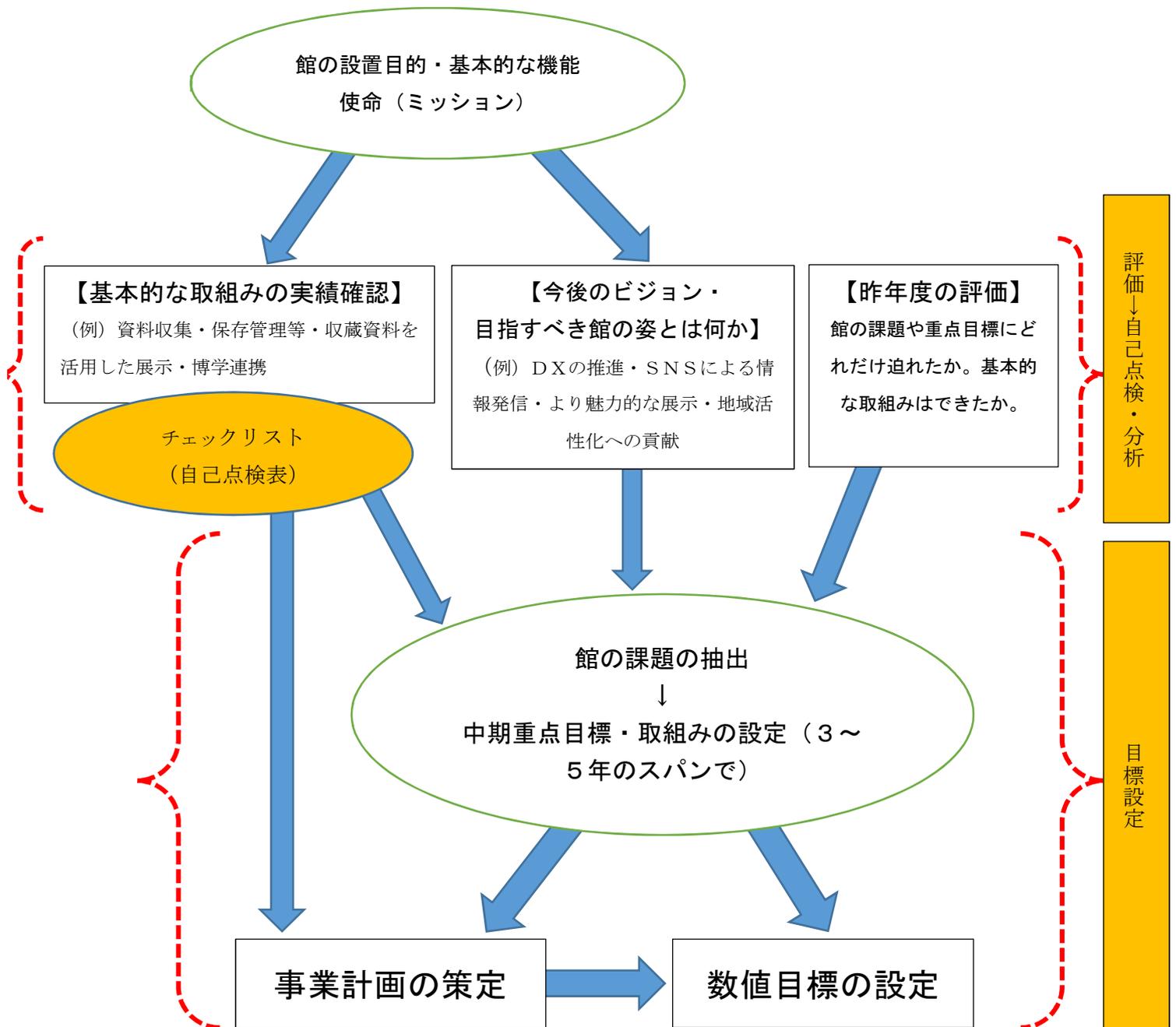
年度 事業名	5年度 当初予算	割合 (%)	4年度 当初予算	割合 (%)	増減額	増減率 (%)
企画展事業費	54,363	30.4%	50,637	39.0%	3,726	7.4%
美術館管理運営費	72,856	40.7%	69,331	40.4%	3,525	5.1%
教育財産管理費	1,400	0.8%	1,400	0.8%	0	0.0%
事務局費 [経常費] (財務課で計上)	50,315	28.1%	50,323	29.3%	△ 8	0.0%
合 計	178,934	100.0%	171,691	110%	7,243	4.2%

(収 入)

(単位：千円)

年度 事業名	5年度 当初予算	割合 (%)	4年度 当初予算	割合 (%)	増減額	増減率 (%)
観覧料収入	25,371	14.2%	20,540	14.6%	4,831	23.5%
一般展示室等使用料	13,616	7.6%	13,670	8.0%	△ 54	-0.4%
行政財産使用料	4,919	2.7%	4,869	2.8%	50	1.0%
図録等売払収入	6,358	3.6%	4,731	2.8%	1,627	34.4%
そ の 他	977	0.5%	1,053	0.6%	△ 76	-7.2%
一 般 財 源	127,693	71.4%	126,820	73.9%	873	0.7%
合 計	178,934	100.0%	171,691	102.6%	7,243	4.2%

## 博物館の目標設定と評価の考え方



## 評価

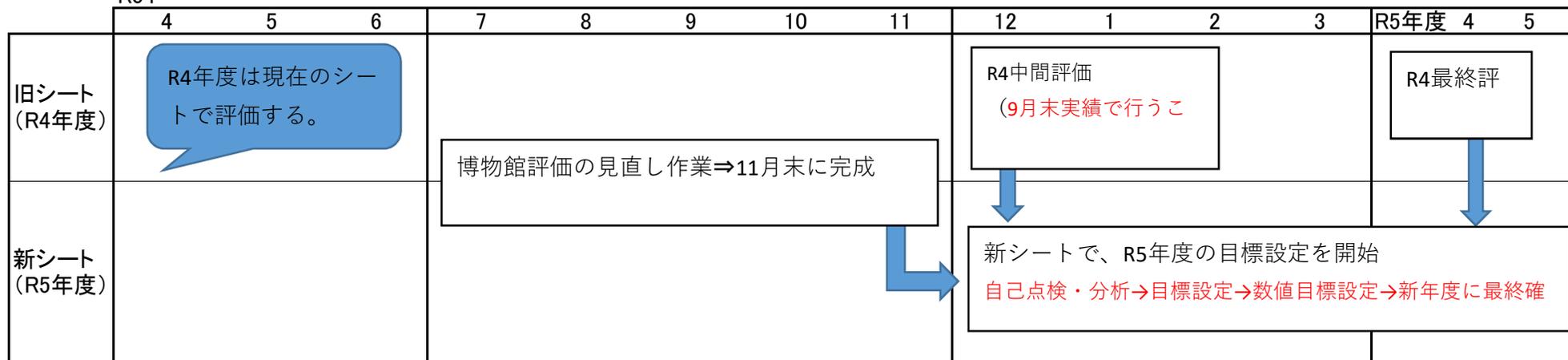
- ・課題解決にどこまで迫れたのか
- ・基本的な取組みはできていたか
- ・足りない点は何か
- ・取組みの方向性に問題はなかったか

⇒これらの観点を、具体的な取組み・事業の実施内容と成果及び数値目標の達成度

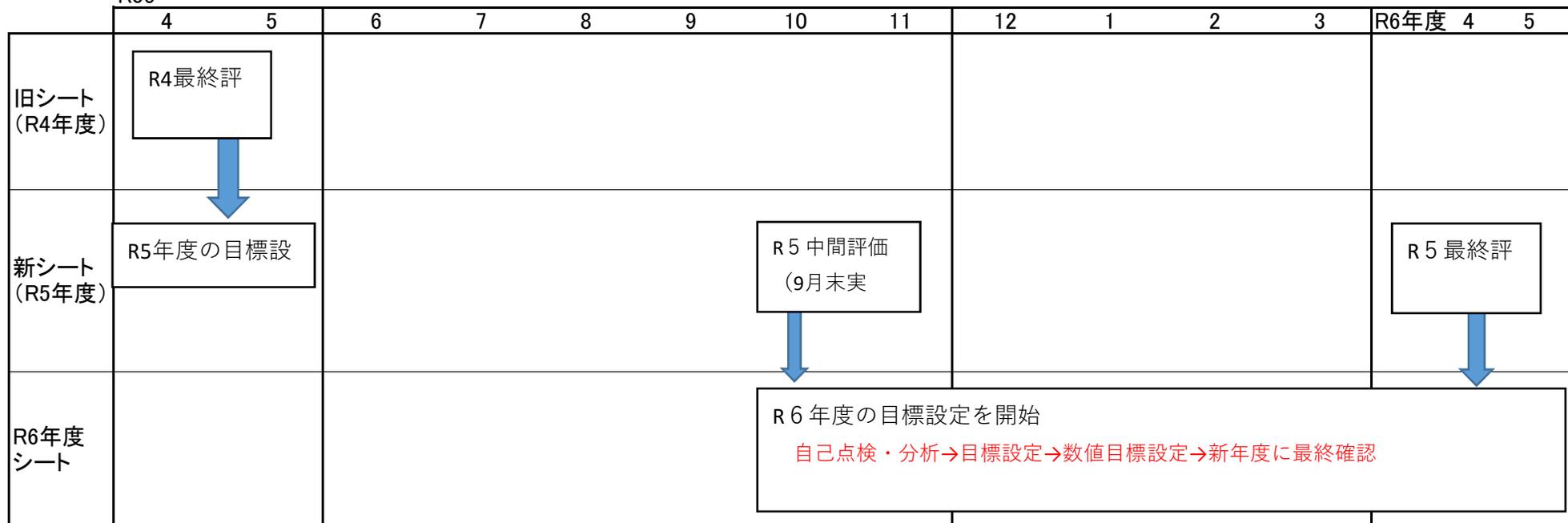
から総合的に分析し評価する。（数値目標を達成したかどうかだけにとらわれない  
全般的総合的な自己評価と外部評価

「博物館評価」の新しいサイクル（案）

R04



R05



## 令和4年度博物館施設評価集計シート（年度末）

施設名 近代美術館

## 1. 数値目標による評価

## (1) 全館共通項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	255,500	人	未達	第3期教育振興基本計画に基づく年度別利用者目標値	
				153,170	人			
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	37,850	人	未達	基準値:37,422人<目標参考値37,849 R3年4期4月分:1,784人、R4年1期:11,126人、2期:9,503人、3期:6,762人、4期:2,505人	
				31,680	人			
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	1,870	件	達成	基準値:1,869件 目標参考値:1,869件	
				1904	件			
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	44,863,000	円	未達	当該年度予算計上額	
				38,404,775	円			

## (2) 館別独自項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	企画展	入館者	企画展の観覧者数	32,240	人	未達	実施予定の企画展の予算積算人数 開館40周年記念展(令和4年度)/4,550人、田中保とその時代/9,924人、桃源郷通行許可証/6,825人、戸谷成雄/2,579人	
				23,878	人			
2	学校との連携	学校利用	学校団体の美術館利用校数	44	校	未達	基準値:43.3校 目標参考値:43.3校	
				28	校			
3	学校との連携	授業協力	学校での鑑賞授業の回数	48	校	未達	基準値:46.3校 目標参考値:48.0校	
				42	校			
4	子供向け事業	MOMASのとびら	MOMASのとびら参加人数	590	人	未達	感染拡大防止に最大限配慮した計画数12人×33回<586人(昨年度)	
				566	人			
5	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	430	件	未達	基準値:430件 目標参考値:430件	
				388	件			
6	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数	1,064,810	件	未達	基準値:925,117件 目標参考値:1,064,810件	
				829,836	件			
7	広報	広報成果	広報媒体での掲載件数	320	件	未達	基準値:293件 目標参考値:315件	
				239	件			
8	満足度	MOMASコレクションアンケート	アンケートでのMOMASコレクション常設展満足度	80.0	%	達成	MOMASコレクション1期:98%、2期:92.1%、3期:99%	
				96.3	%			
9	満足度	企画展アンケート	アンケートでの企画展満足度	80.0	%	達成	開館40周年記念展(令和4年度)91%、田中保とその時代95%、桃源郷通行許可証85%、戸谷成雄 彫刻93%(令和4年度)	
				91.0	%			

※ 利用者数=常設展観覧者数+無料入館者数+アウトリーチ参加者数 常設展観覧者数=特別展・企画展観覧者数+常設展のみの観覧者数  
 ※ 基準値:過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値:基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値 目標値:目標参考値の1の位を繰り上げた数値  
 ※ 目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>* 常設展の開催 収蔵品を中心としたMOMASコレクションを4期にわけて開催。：1期・4月30日～8月28日、2期・9月3日～11月27日、3期・12月3日～2月26日、4期・3月4日～5月7日。収蔵作品の名品を中心とした「セクション」のコーナーのほか、調査研究に基づいた特集展示やテーマを掲げたコーナーなどを設ける。</p> <p>* 企画展の開催 年間4本の企画展を実施：「開館40周年記念展 扉は開いている―美術館とコレクション 1982-2022」2月5日～5月15日、「シアトルーパリ 田中保とその時代」7月16日～10月2日、「桃源郷通行許可証」10月22日～1月29日、「戸谷成雄 彫刻」2月25日～5月14日</p> <p>* 教育普及事業 学校団体案内、授業協力、教材貸し出し、アーティスト派遣事業「ミュージアム・キャラバン」、ワークショップ「MOMASのとびら」、教員美術講座</p> <p>* 広報事業 ホームページ、ツイッター、フェイスブックでの情報発信。美術館広報紙「ソカロ」等の作成、企画展のポスター・ちらしの配布</p> <p>* 一般展示室の貸出 当館地階の一般展示室1～4において、団体展、グループ展、個展など、県民の作品発表の場を提供。</p>
事業の実施状況と過程	<p>* 常設展の開催 上半期の10月末までの観覧者数は19,462人で順調な実績であったが、下半期はやや伸び悩み、1月末現在の観覧者数は26,745人である。3月末の観覧者数は31,680となった。目標値の約84%である。</p> <p>* 企画展の開催 時宜に適った独自性のあるテーマで、企画展のラインナップを組むことができた。「開館40周年記念展」、「田中保とその時代」、「桃源郷通行許可証」は、いずれも当館のコレクションを活用した企画展である。「開館40周年記念展」では、開館当初からの当館の活動を振り返りつつ、これからの美術館の在り方を展望した。「田中保とその時代」は本県ゆかりの画家の久しぶりの回顧展として高い関心を集め、観覧料収入は当初予算額の108%を超える実績となり、図録は会期中に完売した。「桃源郷通行許可証」は6名の現代作家とコレクションとのコラボレーションを試みる意欲的な展示で、コレクションに対する新しいアプローチを提示した。</p> <p>* 教育普及事業の実施 学校関係については、コロナ禍のため多少の変更はあるものの、授業協力、団体案内などの依頼が多くなってきている。しかし、希望する時期が重なることが多く、対応できないこともある。ワークショップは当面の間、人数を制限する必要があるが、より多くの参加者が楽しめるよう、複数のプログラムを異なる場所で実施する回などを設定したり、感染拡大防止対策をとりながら事前申込なしでも参加できる回を設定した。人数制限の緩和や新しいプログラムの開発など、今後のよりよい運営に向けて検討している。</p> <p>* 広報事業の取組 ソカロ等の発行・配布、SNSでのコレクションや展示会の紹介など、その都度適切な時期に情報を発信している。</p> <p>* 一般展示室の貸出 第70回記念「県展」(6月1日～23日。観覧者数：23,104人)、第41回埼玉県高等学校写真連盟展(7月6日～10日。観覧者数：1,011人)、第65回埼玉県高校美術展(11月16日～20日。観覧者数：3,030人)など、86団体の利用があった。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年度は61団体の利用にとどまったが、令和4年度はコロナ禍以前に近い水準まで利用団体数が戻ってきており、県民に対して作品発表の場を提供することが出来ている。</p>
事業の成果	<p>* 常設展観覧者数は目標値の約84%であり、昨年度が好調であったことを考えると一定の水準は達成できた。企画性の高い内容や調査研究に基づいた特集展示などを盛り込み、常設展のセクションの構成に工夫を凝らした。展示方法に関しても、予算上の制約はあるが、様々なアイデアを取り入れて、変化に富んだ展示を目指した。</p> <p>* 企画展観覧者数は目標値の約74%であり、昨年度よりも開催本数が1本減少したことを考えると、一定の水準は達成できた。予算上の制約がある中で、コレクションを積極的に活用し、新しい視点を交えた展示に取り組んだ。「田中保とその時代」では、アメリカの研究者に協力を仰ぎ、海外のデジタルアーカイブも活用して、最新の研究成果を交えた現代的な視点から画家の魅力を紹介した。観覧者数は9,000人を超え、予想以上の反響があった。</p> <p>* 学校の団体利用や授業協力などの評価は未達成ではあるが、学校との連携事業として、ミュージアム・キャラバンの実施や、学校への複製画などの貸し出しなども積極的に行い、一定の水準は達成できた。</p> <p>* 一般展示室の貸出は、コロナ禍により昨年度は61団体の利用にとどまったが、令和4年度はコロナ禍以前に近い水準まで利用団体数が戻ってきており、県民に対して作品発表の場を提供することができた。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	22人 (10人)	総予算額 (人件費を除く)	170,291,000円	職員一人あたりの県民人口	333,239人
収蔵資料総点数 (R4.3末現在)	4,077点	事業経費 (上記の内数)	119,968,000円	利用者一人あたりのコスト (令和3年度)	1,372円
令和3年度 収集資料点数	294点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	44,863,000円 (20,540,000円)	県民人口に対する利用者割合 (令和3年度)	1.83%

(注) 令和4年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,331,256人である

2. 全館共通項目チェックリスト

近代美術館

		評価基準	
		完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
		着手状態乃至課題が残されている状態	B
		未着手状態	C
項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	美術資料収集方針
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	同上
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	A	同上
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	同上
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	A	美術資料取扱規程
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	A	資料選考評価委員会を2回開催
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	A	美術資料取扱規程
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し管理しているか	A	同上
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	2月に実施
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収集作品の保存管理要領
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	同上
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	同上
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	同上
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	B	予算不足のため作品修復が滞っている。今年度は3点のみ修復。
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	収集作品の保存管理要領
	⑦ 資料の殺虫殺菌処理を適切に行っているか	A	同上
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	同上
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	同上
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	同上
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	同上
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	B	予算不足のため作品修復が滞っている。今年度は3点のみ修復。
	⑬ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	美術資料取扱規程

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の保存管理	⑭ 資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	同上
	⑮ 収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑯ 収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰ 収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	① 収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	同上
	② 収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	B	貸出等手続はHPで未公開
	③ 収蔵資料を展示に活用しているか	A	MOMASコレクション、企画展で活用
	④ 収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	近代美術館所蔵作品館外貸出基準
	⑤ 収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	近代美術館条例
	⑥ 資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	収蔵品データベース
	⑦ 収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	同上
常設展示	① 資料の展示環境を適切に管理しているか	A	定期的に環境調査を実施
	② 展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	
	③ 展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	
	④ 展示情報を適宜修正・更新しているか	A	
	⑤ 展示設備等を適宜点検しているか	A	
	⑥ 展示ガイド等を作成しているか	A	展示替え毎に解説シート等を準備
	⑦ 解説リーフレット等を作成しているか	A	ペーパーレス化を図り、壁面等に掲出
	⑧ 展示解説等を適宜実施しているか	B	コロナ禍で展示室での解説は未実施
	⑨ 観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	
	⑩ アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	可能なものは実施
	⑪ 県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	ちらし、ポスター、HP
学習支援事業	① 事業情報を利用者に広く発信しているか	A	印刷物、HP、SNS
	② 多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	はがき、電話、FAX、電子申請等
	③ 多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	一般、子ども(未就学児を含む)
	④ 参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	ボランティアスタッフの配置

項目	チェック内容	評価(A～C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	ボランティアスタッフの配置、注意喚起
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	A	アンケートの分析
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備・運営
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	同上
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	同上
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	A	HP、年報等での活動報告・予告
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	A	浦和パルコ店との連携
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	館の方針を念頭に置き、各個人で設定
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	B	助成金3件申請、採択2件、不採択1件
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	MOMASコレクション、企画展で成果を公表
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	専門研修に参加
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	県内作家の調査研究
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	巡回展の共同開催
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	展示、図録、紀要などで成果を公表
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	レファレンス等情報提供
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	毎年度策定
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	テグス止め等
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	毎年度策定 10月一部改訂
	④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	11月実施
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	A	設置済み
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車椅子3台 ベビーカー5台

項目	チェック内容	評価(A～C)	備考
施設 ・ アメ ニ テ ィ	⑦ バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設設備点検の実施
	⑧ 一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用3台
	⑨ 手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	B	トイレ等の音声ガイダンスは未実施
	⑩ 利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	B	設置済みであるが目に留まりにくい
	⑪ 館内サインの英文表記など国際化への対応はとられているか	B	英・中・ハンゲル語のフロア案内のみ
	⑫ 利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	10:00～17:30
	⑬ 便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	団体バス受入時に公園路の開放等
施設 の 利 活 用	① 施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	危機管理マニュアル別冊に策定
	② 施設利用のための情報を公開しているか	A	HPで公開済み
	③ 施設を一般の利用に提供しているか	A	一般展示室1～4及び講堂
	④ 施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	一般展示室1～4及び講堂
	⑤ 施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	A	6月県展実施
	⑥ 地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	高校写真展・書道展実施

3. 館別独自項目チェックリスト

近代美術館

評価基準				
完了または順調に進捗している問題がない状態				A
着手状態乃至課題が残されている状態				B
未着手状態				C
項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
展示事業の実施	①	展示観覧者アンケートを実施し、満足度を測定しているか	A	
	②	展示観覧者の目標数を設定し、その達成に努力しているか	A	
	③	企画展の理解を深めるため学芸員による展示解説、講演会等を適宜実施しているか	B	コロナ禍のため、3密を回避できる講演会等を実施。
	④	展示内容に即した弾力的な広報活動を実践しているか	A	広報紙の内容・印刷物配布先の見直し
	⑤	外部資金の導入に努力しているか	A	芸術文化振興基金
教育普及及び連携・支援活動の実施	①	収蔵作品の理解を図るため学芸員による解説等を適宜実施しているか	B	コロナ禍のため、3密を回避できる解説会のみ実施。
	②	美術に対する理解を深めるテーマを設定した事業を適宜実施しているか	A	作家との対談、ワークショップなど
	③	授業や部活などの受け入れ体制を整備しているか	A	
	④	教員の資質向上を目的とした研修を実施しているか	A	学校、教育事務所を対象に実施
	⑤	館職員を学校へ派遣し授業協力を実施しているか	A	
	⑥	教育普及用資料の貸し出しを実施しているか	A	複製画、鑑賞キット、アートカード等
	⑦	大学教員と協働しながら学生を適切に指導しているか	A	埼玉大学との授業連携等(単位認定)
地域・他機関との交流・協力事業の実施	①	地域・他機関との交流・協力事業を実施しているか	A	浦和・パルコ店との連携
	②	企画展等を通じ国外美術館等と相互交流を図っているか	A	田中保展

令和4年度 博物館施設 総合評価

施設名 近代美術館

		達成	未達
全館共通	数値目標による評価	1	3
各館独自	数値目標による評価	2	7

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	82	8	0
各館独自	チェックリストによる評価	12	2	0

自己評価総括

評 価	<p>・企画展「開館40周年記念展」「田中保とその時代」「桃源郷通行許可証」は、コレクションを多角的な観点から再検証し活用する事例として、一定の成果を上げることができた。「桃源郷通行許可証」では、出品作家とゲストによるアーティスト・トークなど、展示への理解を深めるイベントを対面で開催することができた。</p> <p>・常設展の観覧者数は、好調であった昨年の数値には及ばなかったが、目標値の84%程度は達成できた。夏休み期間にあわせ、デザイン椅子を紹介する「デザインで語るユートピアー1960ー70年代のイタリアから」を開催したり、県内ゆかり作家の調査研究を元にした特集展示を実施するなど、全体のプログラムに工夫を凝らした。</p> <p>・コロナ禍で開催が中止となっていた第70回記念「県展」が、主催者側との連携により、新型コロナウイルス感染防止対策の徹底を図りながら3年ぶりに開催されたことは、地域にとどまらず県全体の活性化に繋がり、県立美術館としての役割を果たすことができた。</p>
課 題	<p>・展示活動や人数制限が可能なイベントに関しては順調に実施できているが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、3密になりやすい展示室内でのイベント(ギャラリートーク、ボランティアのガイドなど)は開催を控えている。</p>
対 応 の 方 向	<p>・展示室内でのギャラリートークなどについては、今後、新型コロナウイルス感染症対策の緩和の時期を見極め、段階的な実施を検討していく。</p> <p>・展示室内でのイベントについては、作品の実物を観ながらのギャラリートークなど、臨場感のあるリアルを第一として実施することを基本とし、イベントの再開の時期を見極め、時間等の制限をしながら段階的に本格実施に向けて進めていく。ただし、著作権上の問題が生ぜず、技術的に調整が可能な場合には、引き続き、オンラインでの開催も検討していく。</p> <p>&lt;参考1&gt; 対面でのトークイベントやボランティア活動であっても、展示室内以外では、新型コロナウイルス感染防止の観点を踏まえながら、段階的に再開している。例えば、講堂での催しは参加人数を制限して実施している(企画展関連トークイベント、ミュージアム・カレッジ、ミュージアム・シアター、ミュージアム・レクチャーなど)。また、美術館サポーターによるガイド(ボランティアのガイド)は、定員を絞り、屋外彫刻、建築、館内のフリースペースの作品の案内を再開している。</p> <p>&lt;参考2&gt; オンライントーク「岩槻出身の田中保画伯を語る」(岩槻観光委員会×埼玉県立近代美術館) 岩槻観光委員会の担当者と当館学芸員がオンライントークにより田中保を紹介。 日時:2022年9月10日(土)18:30~19:45、開催方法:オンライン(Zoom)、定員:先着100名(無料)</p>

# 令和5年度 博物館施設 目標設定・評価シート

**年度当初目標設定**

中間評価（6月末実績）

年度末確定評価

施設名                  近代美術館

---

## I 自己点検・分析

- 1 館の使命・ビジョン
- 2 現状分析と課題の抽出
- 3 チェックリスト(自己点検表)

## II 目標設定

- 1 中期重点目標と取組みの設定
- 2 単年度指標による数値目標と達成値
- 3 取組みの概要

## III 評価

- 1 自己評価総括
- 2 外部評価委員等によるコメント

## I 自己点検・分析

### 1 館の使命・ビジョン

- 1 美術と出会い、新たな考え方や価値を発見するための体験を提供します。
- 2 人々が集い、参加し、交流するための基地となります。
- 3 未来を創る子供たちの感性と創造力を育みます。
- 4 地域や県民とともに進化する美術館を目指します。

### 2 現状分析と課題の抽出

- ・出会い・発見・感動をキーワードに、新たな視点に基づく企画展・常設展や美術の楽しさを体感できるプログラムの提供に努めているが、今後も更なる充実を図る必要がある。
- ・そのためには、美術資料収集基本方針に基づいた体系的なコレクションの形成を目指し、作品の継続的な収集と適切な保存に努めるとともに、美術館活動の基盤となる調査研究を重視しなければならない。
- ・美術館では、展示室に加え、レストランやミュージアムショップなども備えているが、より上質な空間とゆとりの時間を提供できるように工夫するとともに、高齢者・障害者を含め誰もが利用しやすく、居心地の良い環境となるように老朽化した施設設備の整備に努める必要がある。
- ・また、「MOMASのとびら」をはじめとする、子供向け教育・普及事業を積極的に実施しているが、子供たちが感性や創造力を生き生きと発揮できる事業の検討が求められている。
- ・地域の多様な主体との連携に取り組んでいるが、今後は、北浦和公園の整備と活用も含め、美術館が主体的に地域の賑わいや活性化に寄与することが求められている。
- ・社会のデジタル化に対応するため、収蔵作品のデジタル・アーカイブ化とその公開を進めるなど、デジタル技術を活用した取組を推進して新たな顧客層の開拓に努めることが必要である。

## II 目標設定

### 1 中期重点目標と取組みの設定

#### 【中期重点目標】

- |                              |         |
|------------------------------|---------|
| ① 美術資料の体系的な収集と適切な保存のための施設の確保 | 令和5～9年度 |
| ② 調査研究と企画展・常設展等の更なる充実        | 令和5～9年度 |
| ③ 利用者のための快適な環境づくり            | 令和5～9年度 |
| ④ 子供たちの感性と創造力の育成             | 令和5～9年度 |
| ⑤ 地域の賑わいや活性化の創出              | 令和5～9年度 |
| ⑥ デジタル技術の活用の推進               | 令和5～9年度 |

#### 【取組み】

- ① 美術作品取得基金における動産の買戻しへの働きかけと新収蔵庫等の確保
- ② 収蔵作家、埼玉ゆかり作家の調査研究とその成果を生かした展示等の実施  
 <企画展・常設展の満足度 各年度90%以上>
- ③ 美術館と北浦和公園の計画的な施設設備の整備  
 <改修・修繕件数 R5:30件、R6:30件、R7:30件、R8:30件、R9:30件>
- ④ 子供向け教育・普及事業の充実
- ⑤ 北浦和公園を活用した地域の賑わいや活性化を創出する取組の実施
- ⑥ 収蔵作品のデジタル画像(高精細画像を含む)の公開  
 <公開画像件数 R5:1900件、R6:2300件、R7:2700件、R8:3100件、R9:3500件>

## (1) 全館共通項目

項目	達成基準		達成度	課題等
チェック内容		実施しているが、取組みが不十分	2	
		実施、又は達成している	3	
項目	チェック内容		達成度	課題等
資料収集	①	資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	2	美術作品取得基金による作品購入が困難な状況。
	②	映像資料や情報資料等を収集しているか	3	
資料の保存管理	①	収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	3	
	②	資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	3	
	③	資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	2	予算不足のため、作品修復が滞っている。
	④	資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか。	3	
資料活用	①	収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか。	3	
	②	収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	3	
	③	収蔵資料のデジタル・アーカイブ化(画像を含めた)に取り組んでいるか	2	文字情報は進んでいるが、画像の公開は限定的。
常設展示	①	展示設備等を適宜点検しているか	3	
	②	常設展示は定期的に更新しているか。	3	
	③	展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	3	展示替え毎に、閲覧できる解説カードを設置している。
	④	展示解説等を適宜実施しているか	2	R4はコロナ禍のため展示室内では未実施。
	⑤	アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3	
	⑥	日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	2	コーナー解説は未実施。
	⑦	観覧者の満足度は得られているか	3	
学習支援・普及事業	①	誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか(参加申込み方法・プログラム内容・サポート体制等)	3	
	②	アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	3	
	③	来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	3	
	④	学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	3	

項目	チェック内容			
情報発信	①	SNS等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか	3	
	②	資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか	3	
	③	定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか	3	
	④	デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか	2	一部のデジタル画像の公開にとどまっている。
県民との協働・地域連携	①	ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか	3	
	②	ボランティア研修を適切に実施しているか	3	
	③	外部団体が館事業に参加する機会を設けているか	3	
	④	地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか	3	
	⑤	地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか	3	
調査研究	①	収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか	3	
	②	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	3	
	③	館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	④	学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	⑤	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	3	
施設・アメニティー	①	施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか	3	
	②	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	3	
	③	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	3	
	④	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	2	トイレ等の音声ガイダンスは未実施。
	⑤	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	2	英・中・ハングル語のフロア案内のみにとどまっている。
	⑥	展示室内の安全性の確保(監視員の配置・監視カメラの設置等)に努めているか。	3	
施設の活用	①	施設利用のための情報を公開しているか	3	
	②	施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか	3	
	③	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	3	
	④	施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか	3	

施設名 近代美術館

(2)館別独自項目

達成基準	
未実施、又は取り組まれていない	1
実施しているが、取り組みが不十分	2
実施、又は達成している	3

項目	チェック内容	達成度	課題等
企画展示の実施	① 企画展の理解を深めるため学芸員や関係者による展示解説、講演会等を適宜実施しているか	2	R4はコロナ禍のため展示室内では未実施。
	② 展示内容に即した弾力的な広報活動を実践しているか	3	
	③ 外部資金の導入に努力しているか	3	
	④ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3	
教育普及および連携・支援活動の実施	① 美術や芸術全般に対する理解を深めるテーマを設定した事業を適宜実施しているか	3	
	② 授業や部活などの受け入れ体制を整備しているか	3	
	③ 教員の資質向上を目的とした研修を実施しているか	3	
	④ 学校への職員派遣など、授業協力を実施しているか	3	
	⑤ 大学と協働して学生を適切に指導しているか	3	
流地域・域協力他事業との実施	① 地域・他機関・他美術館との協力事業を実施しているか	3	
	② 企画展等を通じ国外美術館等と相互交流を図っているか	3	
	③ 北浦和公園を活用した地域との交流・協力事業を実施しているか	2	予算がないため、特別な交流・協力事業は未実施。(彫刻あらいぐま、ポリスコンサート、自治会も含めた公園の防災設備の使用訓練等は実施。)

Ⅱ-2 単年度指標による目標値と達成値

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	使命1~4 全般的活用	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	259,500	人		第3期教育振興基本計画を踏まえた目標値
2	使命1 展示公開	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	35,000	人		基準値:34,998人 目標参考値:34,998人
3	使命1~4 全般的活用	利用者数	1日当たりの利用者数	850	人		(年間入館者+アウトリーチ)÷開館日数
4	使命2・4 情報発信・活用	デジタル情報の利用状況	HPアクセス数	917,800	件		基準値:917,798件 目標参考値:917,798件
5	使命1~4 情報発信	広報活動	メディア掲載件数	270	件		基準値:268件 目標参考値:268件
6	使命1~3 活用・利用提供	経営努力	観覧料および事業等収入額	29,261,000	円		* 当該年度予算計上額

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	使命1 展示公開	企画展観覧者	年間企画展観覧者数	43,172	人		実施予定の企画展の予算積算人数
2	使命3 学校との連携	学校利用	学校団体の美術館利用校数	40	校		基準値:35校 目標参考値:35校
3	使命3 学校との連携	授業協力	学校での鑑賞授業の回数	50	校		基準値:46校 目標参考値:46校
4	使命3 子供向け事業	MOMASのとびら	MOMASのとびら参加人数	1,380	人		基準値:1,371人 目標参考値:1,371人
5	使命1 満足度	アンケート	企画展・常設展の満足度	90%以上	%		中期重点目標による取組
6	使命2 施設設備の整備	改修・修繕	改修・修繕件数	30	件		中期重点目標による取組
7	使命4 デジタル技術の活用	収蔵作品のデジタル画像	公開画像件数	1,900	件		中期重点目標による取組

※ 利用者数=常設展観覧者数+無料入館者数+アウトリーチ参加者数 常設展観覧者数=特別展・企画展観覧者数+常設展のみの観覧者数  
 ※ 基準値:過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値:基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値 目標値:目標参考値の1の位を繰り上げた数値 ※ 目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等を考慮しないで、例年通りの方法を採用した。

### 3 取り組みの概要

施設名

近代美術館

#### 1 数値目標による評価

##### (1) 全館共通項目

- 利用者数、利用状況、広聴・広報、経営努力

新型コロナウイルスによる利用者の減少を回復させるため、企画展、常設展等のさらなる周知をはかる。

また、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5月8日から5類に変更されたことに伴い、館内各施設の収容人数制限が緩和されたことから、トークイベントや担当学芸員の作品解説会のほか、主催事業の参加者増加が見込まれる。

##### (2) 館別独自項目

- 企画展

館HPやチラシの配布など広報活動により企画展内容の魅力発信を行い、入館者数の増に結びつけていく。

- 学校との連携

広報活動等を積極的に行うことにより学校の美術館利用を促進し、限られた人員の中ではあるが、学校での鑑賞授業回数を増やしていく。

- 子供向け事業

MOMASのとびらなどについて、新型コロナウイルス感染症による人数制限が緩和されることから、よりたくさんの参加者を募ることができるよう、内容の充実と広報活動を進める。

- 情報提供サービス、インターネット活用などの利用状況

美術館に関心を持ってもらえるよう広報を充実させ、年間レファレンス対応件数を伸ばせるよう努めるとともに、ホームページの内容を魅力あるものを発信する。

- 満足度

企画展・常設展については既に高い満足をいただいているところではあるが、今年度もさらに満足度が上がるよう、内容の充実を図っていく。

### Ⅲ 評価

#### 1 自己評価総括

##### (1) 評価

##### (2) 課題と対応の方向

#### 2 外部評価委員等によるコメント